

それはみなさまの一生に寄り添うこと
「ずっと。」



溪仁会グループCSRレポート2011

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

i 溪仁会グループ

医療 溪仁会 社会福祉 溪仁会
法人 法人

溪仁会グループの事業理念

【事業理念】

安心感と満足の提供
Offering a Sense of Security and Satisfaction

信頼の確立
Building the Foundations of Trust

プロフェッショナル・マインドの追求
Attaining a Professional Mind

変革の精神
Developing the Spirit of Change

【ミッション】

保健・医療・福祉の各サービスをシームレスに提供し、
地域住民の生涯に亘るニーズに応え支援を行う。

【サービス憲章と行動基準】

私たちは、質が高く効率的なサービスを提供するため、
グループの総力を挙げ(グループ連携)、地域の関係機関との連携を密にし(地域連携)、
他の関連事業との提携を展開し(業務提携)、患者様・ご利用者様との協同活動を通じて、
満足度の高い保健・医療・福祉サービスを目指します。

そのために…

1. 私たちは、患者様やご利用者様にとって最高の満足度を追求します。……………顧客満足
2. 私たちは、最高のサービス品質を追求します。……………品質管理
3. 私たちは、人権と倫理を尊重したサービスを提供します。……………人権尊重
4. 私たちは、地域社会の一員として事業活動の公正性確保と遵法を徹底します。……………遵法精神
5. 私たちは、常に技術の向上と革新に努めます。……………技術変革
6. 私たちは、日々研鑽に励み、人格と知識の向上に努力します。……………教育研修
7. 私たちは、職種を越えたチーム活動に徹します。……………チームワーク
8. 私たちは、サービス提供に関わる情報を公開します。……………情報公開
9. 私たちは、各機関との地域連携を重視し地域に根ざすサービスを供給します。……………地域重視
10. 私たちは、環境を保護するためにあらゆる配慮を尽くします。……………環境保護
11. 私たちは、お互いを尊重し、ゆとりある職場環境を追求します。……………職場環境
12. 私たちは、個人情報保護を、守秘義務を果たします。……………個人情報保護

溪仁会グループCSRレポート2011 | CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

CONTENTS

東日本大震災 災害医療支援活動報告	
大災害を前に私たちが果たすべき使命とは	……………P04
私たちのCSR	…………… P06
溪仁会グループの輪「ずーっと。」を支える組織として	……………P08

特集

「ずーっと。」を実現する 溪仁会の取り組み

生命のすこやかな成長を願い見守り続ける組織をめざして	……………P10
どこに住んでいても安心して暮らしていただくために	……………P14
病気を未然に防ぎ、健康に暮らしていただくために	……………P18
最新の医療技術で生命を救うという使命	……………P20
いくつになっても自分らしい生き方ができる社会へ	……………P24
人生の最期の時間までその方らしく生きていただくために	……………P26
データで見る溪仁会グループ	……………P30

溪仁会グループ施設運営概要

〔医療法人溪仁会〕	
手稲溪仁会病院	……………P34
札幌西円山病院	……………P36
定山溪病院	……………P37
溪仁会円山クリニック	……………P38
手稲家庭医療クリニック／泊村立茅沼診療所	……………P39
〔社会福祉法人溪仁会〕	
月寒あさがおの郷	……………P40
西円山敬樹園／カームヒル西円山	……………P41
菊水こまちの郷／コミュニティホーム白石／コミュニティホーム八雲	……………P42
コミュニティホーム美唄／美唄市東地区生活支援センターすまいる／コミュニティホーム岩内	……………P43
ハーティケアセンター（豊平／円山／新琴似／青葉／手稲溪仁会／おおしま）	……………P44
株式会社ハーティワークス／株式会社ソーシャル／溪仁会健康保険組合	……………P45

溪仁会グループ全体の取り組み

働く意欲とキャリア形成を支援する職員研修	……………P46
コンプライアンス体制の堅持に向けて	……………P46
ISO26000への対応	……………P47
独自のマネジメントシステム構築の取り組み	……………P47

トップメッセージ

溪仁会グループ最高責任者 医療法人溪仁会理事長 秋野豊明	…………… P48
------------------------------	-----------

第三者意見	……………P50
-------	----------

編集方針

溪仁会CSRレポートは、多くのステークホルダーの皆さまに当グループのCSR(社会的責任)の考え方や取り組みを誠実にお伝えすることを目的に2006年度から発行しています。2011年版では、当グループが社会からの要請を受け活動している特徴的な分野を取り上げ、各分野におけるステークホルダーのお話を伺いました。溪仁会全体の1年間を振り返るにあたり、ご利用者さまの視点からそれぞれの取り組みを再確認したいと考えたからです。ご協力いただいたステークホルダーの皆さまの声は、今後のCSR活動の新たな展望につなげたいと考えています。

信頼性への配慮

CSR分野に詳しい有識者の方々からいただいたご意見やアドバイスをもとに、公正な視点から情報公開をしております。第三者意見としては、昨年に引き続き東京交通短期大学学長の田中宏司氏に所見を依頼いたしました。また、当グループのWebサイト上でも、同内容の情報を公開しております。

CSRレポート掲載URL
<http://www.keijinkai.com>

報告対象範囲

当グループの2010年度(2010年4月～2011年3月)の活動を中心に、2009年度以前や2011年度以降の活動情報も記載しています。各施設の診療実績等のデータについては特に記載のない限り、2010年度のもです。

大災害を前に 私たちが果たすべき使命とは

2011年3月11日 PM2:46

宮城県牡鹿半島沖を震源地とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部を大津波が襲いました。

溪仁会グループは、災害現場における医療支援活動と、宮城県気仙沼市で運営する「おおしまハーティケアセンター」の被災という2つの側面から東日本大震災とかかわることになりました。今回の震災での当グループの活動をご紹介します。

溪仁会グループ

東	日	本	大	震	災
災	害	医	療	支	援
活	動	報	告		

災害直後における「DMAT」の活動

1995年に起きた阪神・淡路大震災を機に発足したのが、災害医療に対応する専門医療チーム「DMAT (Disaster Medical Assistance Team)」です。手稲溪仁会病院でも、2チームのDMATが緊急時に備えています。今回の震災では、1チームが医師と看護師各2名に薬剤師1名という編成で、岩手県での医療支援活動に従事しました。同病院のDMATは地震発生直後から出動に備えて待機。12日の早朝5時に、航空自衛隊基地から自衛隊機で岩手県いわて花巻空港に向かいました。最初の目的は空港の格納庫内に広域搬送が必要な患者さまを受け入れる医療

拠点を立ち上げること。到着直後からベッドの準備を開始し、治療責任者として対応にあたりました。当初は、県外への広域救急搬送を要する方が多いと予想されていましたが、実際には少なく、北海道に運ばれた患者さまは4名。そのうち1名の方を手稲溪仁会病院で受け入れました。3日は岩手県立釜石病院での医療支援に向かいました。手稲溪仁会チームが到着すると廊下にも人があふれている状況でした。服薬中の薬をなくされた高齢の患者さまも多く、同チームは、他県のチームと連携しながら24時間体制で治療を行いました。



手稲溪仁会病院
救命救急センター長
高橋 功

災害地での迅速な活動開始が使命

今回はDMATが組織されて初めての派遣でした。実際の活動では、重症の外傷者対応より、慢性期疾患を持つ高齢の患者さまの治療が多く、災害の性質や地域性によって、臨機応変な支援が求められることを実感しました。まだ雪がちらつくような寒い時期でしたが、被災された方々から、「わざわざ北海道から来てくれてありがとう」と温かい声をかけていただいたことが心に残っています。今回の活動では、他県チームとして最初に現地入りするなど、DMATとしての使命を果たすことができたと思っています。この経験をこれからの活動につなげていく考えです。



地域医療の再生を支援する「JMAT」の活動

手稲溪仁会病院ではDMATに続いて、4月から約2カ月にわたり、日本医師会医療災害チーム「北海道JMAT (Japan Medical Association Team)」の派遣を実施。7チーム、41名が岩手県山田町での医療支援活動に従事しました。

現場となった山田町は、震災から1カ月弱が経ち、地域の医療機関が少しずつ再開してきた時期でした。そのため、北海道JMATは後方支援活動を中心にを行いながら、医療体制の再生をバックアップするための体制づくりに取り組みました。

同チームは救急搬送の補助や夜間診療へのサポートのほか、潜在ニーズが高いと思われる避難所や在宅被災者への巡回診療を強化。また、「本部救護所」の設置を山田町役場に提案し、立ち上げと運営に携わりました。同チームの活動終了後、本部救護所の運営は他の支援チームに引き継がれ、7月まで継続されました。



手稲溪仁会病院
小児科医師
中島 泰志

地域に残された医療機関の再建を重視

震災後、4月に入っても被災地からの情報は乏しく、北海道JMATの第1班は情報収集や医療支援体制の整備を目的に、現地に入りました。山田町は壊滅的な被害を受け、行政の機能が失われていました。そこで、被災者の声を聞き、医療ニーズの掘り起こしを行いました。また、もともと潤沢ではない地元医療機関の力を奪うことなく、いかに地域医療の再建を図るかも重視しました。今回の活動では被災した人たちがまん強さに触れ、東北の持つ底力を感じました。そうした土地柄も踏まえて、必要な医療の枠組みを提供することも医療支援の役割だと思っています。

医療支援を通じて当グループができること

被災地での迅速な医療活動は、生命を救うのと同時に、被災された方々の精神的な支えにもなります。一方で、地域性や医療ニーズに合わせた柔軟な対応が必要なことも、今回の活動で浮き彫りになりました。溪仁会グループはこうした経験をもとに、これまで以上に救命救急活動や医療支援の向上に尽力し、社会貢献を果たしていきます。

被災地への医療支援スタッフ派遣状況

3/12~15 手稲溪仁会病院 DMAT 5名
岩手県いわて花巻空港・県立釜石病院
3/23~29 手稲溪仁会病院 医療救護班 7名
福島県白河市
3/30~4/4 定山溪病院 菅原啓副院長
宮城県南三陸町 ※セコム医療グループSDMATとして
4/8~5/4 手稲溪仁会病院 医療支援チーム 31名
岩手県山田町 ※日本医師会JMATとして交代で派遣
5/31~6/6 手稲溪仁会病院 医療支援チーム 5名
岩手県山田町 ※日本医師会JMATとして
6/8~6/14 手稲溪仁会病院 医療支援チーム 5名
岩手県山田町 ※日本医師会JMATとして



「おおしまハーティケアセンター」被災から立ち上がる力に

溪仁会グループが道外で運営する唯一の施設「おおしまハーティケアセンター」は、宮城県の気仙沼湾に浮かぶ離島「大島」にある介護複合施設です。今回の震災では1階部分が浸水し大きな被害を受けましたが、ご利用者さまや職員は、迅速に高台に避難し無事でした。同センターは大島地区の介護拠点としての役割を担っています。浸水被害で施設は使えなくなりましたが、早い段階から職員たちがご利用者さまのご自宅を訪問し、状況の把握やケアを実施。また、訪問看護や居宅サービスも再開し、自立した生活が困難な方々を支え続けました。職員の多くも被災しましたが、ご利用者さまのために、という思いを支えに業務に取り組みました。保育所などのスペースを借りて活動していたデイサー

ビスは、同センターの改修工事の完了を受け、9月12日から再スタートしました。佐藤壮平センター長は、「震災後は心身にストレスがかかり、特に高齢の方々には辛い状況が続いていたと思います。再開を待ちわびていたご利用者さまも多く、泣いて喜ばれた方もいました。心のケアを大切にしながら、少しずつ震災前の状況に戻していきたい」と話します。ショートステイも10月1日から再開し、サービス体制はほぼ復旧しました。溪仁会グループでは、早期から状況把握と同センターの活動再開に努め、サービスの継続をめざしてきました。地域の高齢者福祉を支える者として、これからもできる限りの支援を続けていきます。



佐藤センター長

溪仁会グループがめざす 「ずーっと。」 それは、皆さまの一生に 寄り添うこと

溪仁会グループは30年以上にわたり、保健・医療・福祉サービスを支える者として、地域の皆さまに寄り添い続けてきました。社会の高齢化、医療の高度化が加速するなか、当グループが果たすべき役割を常に認識し、皆さまのニーズに応えながら良質なサービスの実現に努めています。

溪仁会グループがスローガンとして掲げる「ずーっと。」。この簡潔な言葉には、当グループが取り組むべき使命が表現されています。「地域の皆さまへの生涯にわたる支援」「保健・医療・福祉サービスの切れ目ない提供」「地方における保健・医療・福祉への貢献」「組織として存続し続ける義務」。こうした社会的責任を果たし、地域の皆さまに安心と満足を提供することが、当グループのスローガンである「ずーっと。」が示す姿勢です。

当グループとかわかるすべての方々が、いつまでも自分らしく幸せに暮らすことができる地域社会をめざして。溪仁会グループは、信頼され、愛され続ける組織づくりに取り組み、これからも皆さまの暮らしに寄り添い続けていきます。

私たちは、生命の誕生のときから、健やかな老後まで皆さまの一生にわたってかわかり続けます。周産期・小児医療への取り組み、最先端医療の提供、充実した高齢者福祉やターミナルケアの実現など、人生のあらゆるシーンに寄り添い、見守っています。

一生を見守り続ける
 溪仁会の「ずーっと。」

私たちは、保健・医療・福祉にまたがるグループとしての総合力を生かし、スムーズなサービスの提供に努めています。組織内の各病院や施設、法人が密に連携しながら安心してご利用いただける体制整備に取り組んでいます。

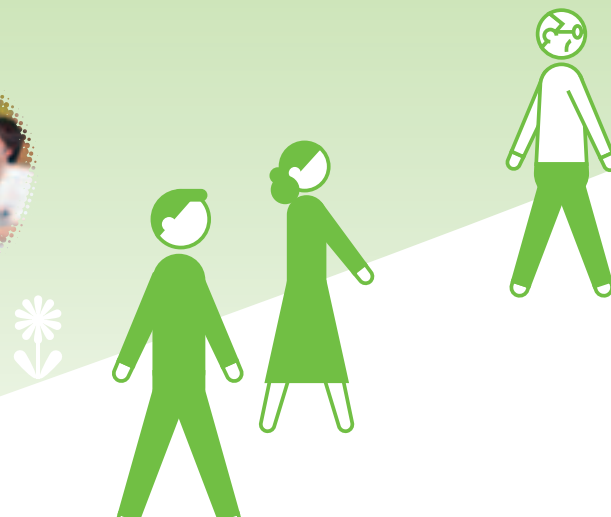
保健・医療・福祉サービスを
 途切れることなく提供する
 溪仁会の「ずーっと。」

私たちは、地方に暮らす方々の健康や生活に貢献する取り組みを重視しています。へき地医療の担い手育成や保健事業の展開、地域性に応じた高齢者福祉の提供など、地方を支える力になりながら、未来に向けたサービスのあり方を追求しています。

地方の保健・医療・福祉を支える
 溪仁会の「ずーっと。」

私たちは、地域の保健・医療・福祉を担う者として「存在し続けること」も責任の一つと考えます。持続可能で安定した経営基盤を確立することで、地域の皆さまから信頼される組織運営をめざします。

いつまでも皆さまのそばに
 溪仁会の「ずーっと。」



溪仁会グループCSRレポート2011 | 09

特集 「ずーっと。」を実現する溪仁会の取り組み

誕生～子育てを支える

生命のすこやかな成長を願い 見守り続ける組織をめざして

少子高齢化が進行するなか、安心して子育てができる社会づくりが求められています。
溪仁会は生命の芽生えの時から、お子さまのすこやかな成長をサポートしています。



新生児医療や小児救急にも
対応できる施設が増えると
もっと安心して
出産・子育てができると思います

インタビューホルダーの声
湯谷 啓巳さん(左)
石崎 理恵さん(右)

30代半ばでの出産ということもあり、NICU（新生児特定集中治療室）などの施設が整った総合病院で出産することにしました。リスクのことを考えると安心して出産できる環境を選びたい、と思いました。私は産前ギリギリまで働いていたのですが、「妊娠ってたいへんだな」と実感することが多かったですね。最近では小児科医が減っている問題もあり、子育て環境も気になります。もっと、女性や子どもに優しい社会になってほしいと思います（湯谷さん）。

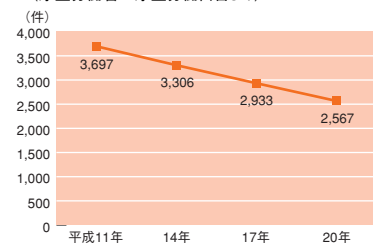
妊娠初期は近くの産科クリニックに通っていましたが、いざという時のことを考え、周産期医療に力を入れている病院に移りました。不安なことがあっても、看護師さんがこまめにケアしてくれますし、精神的にとっても楽になりました。最近では、子どもの救急を受け入れない施設が増えているという話を聞きます。そうした実情を知ると、出産時から子どものことを継続して診てくれる病院の方が、将来的にも安心だと思えますね（石崎さん）。

（2011年6月23日に札幌市中央区のレストラン「イル・キャンティ」にてお話をうかがいました）

社会の視点

分娩を受け入れる医療施設が
減少し続けています

●分娩取り扱い施設の推移
（厚生労働省 厚生労働白書より）



分娩を受け入れている施設（病院・診療所）は、平成11年から20年の10年間で30%以上減りました。

プロフェッショナル
マインド
インタビュー①

周産期を支える
助産師外来の活動



手稲溪仁会病院 看護部 助産師
前川 摩美
MAEKAWA MAMI

妊娠中の悩みや不安に寄り添いながら、
生命の誕生を支える仕事に、喜びと誇りを感じています。

手稲溪仁会病院の産婦人科では、2010年6月から「助産師外来」を実施しています。医師が正常な妊娠であると判断した妊婦さんを対象に助産師が定期検診を行うことで、医師には相談しにくい妊娠中の疑問や悩みにも答えていこう、という目的でスタートしました。

前川摩美助産師は、他の病院で助産師外来を担当した経験をもとに、2009年から開設準備に携わってきました。「スタッフの間から、助産師外来を始めたい、という声が出ていました。どんなケアをするのか、診察室のインテリアはどうするかなど、アイデアを出し合いながら、一つずつ考えていきました」

助産師外来は、毎週木曜日の午後に、予約制で実施しています。明るい雰囲気のある診察室の中にはマットが敷かれ、妊婦さんはリラックスした姿勢で受診できます。

「30分という時間の中で、妊婦さんとできるだけ話すようにしています。妊娠中は、誰かに話を聞いてもらっただけでストレスが和らぐことも多いはず。心のフォローも重視しています」と前川助産師。ときには話題が家族や暮らしの

話に及ぶこともあります。「生活全体を見るケアが目標。だからそういう会話こそ大切にしたい」と言います。

出産は人生の中でも大きなポイント。特に最初の出産での経験が、その後の子育てに影響することもあるため、胎児のモデルを使ったイメージトレーニングや、むくみを解消するマッサージなどをアドバイスしながら、恐怖心や不安感を少しでも解消するようにしています。「その方にとって、より良いお産のあり方を一緒に考えていく」ことで、出産後の生活もサポートするためです。

手稲溪仁会病院は急性期病院という機能から、リスクのある出産が多く、助産師外来を受診される方は一部でした。そのためこれからは基準を見直し、利用できる対象者を増やしていく予定です。「助産師はみんな話すのが大好き。だからより多くの妊婦さんとふれ合ってお産をサポートしたい」と前川助産師は笑います。生命の誕生にかかわる喜びが、働く原動力に。助産師外来を実施している診察室からは、いつも明るい笑い声が響いています。



在宅ケアを支える 小児NIV治療の取り組み

【手稲溪仁会病院】

手稲溪仁会病院では、人工呼吸器などによる呼吸補助が必要な小さなお子さんに、NIVという治療方法を導入し、効果を上げています。患者さまの身体への影響が少なく、生活の質の改善にもつながる小児NIVの取り組みは、全国から注目と期待を集めています。

全国的にも例の少ない 小児へのNIV治療を導入

呼吸補助が必要な患者さまに対し、鼻マスクを付けてそこから空気を送り込む治療方法があります。「非侵襲的換気療法」（noninvasive ventilation）、通称「NIV」と呼ばれる治療は、文字通り身体への負担が少ないのが特長です。成人では標準的な治療となっていますが、小さなお子さんはマスクを嫌がって外してしまったり、マスクのサイズが合わないといった理由から、なかなか普及が進まないのが実情です。

手稲溪仁会病院では、このNIVを2006年から小児医療にも導入し、普及させる取り組みを行ってきました。全国でも実践している医療機関は少ないなか、小児にNIVを積極的に使うことで、お子さんが会話や食事、行動などを制限されることなく、生活の質を保てるようにサポートしようという試みでした。

小児NIVの対象となる患者さまの多さや、治療効果が実証されたことなどから、2008年には「小児NIVセンター」を開設。小児NIVの導入を進めてきた土畠智幸センター長を中心に、看護師、リハビリスタッフなどによるチームケアを開始しました。在宅でのNIV使用についても、ご家族への指導やアドバイス、定期的な往診などによってサポート。在宅ケアが可能なお子さんが増えたことから、現在は訪問診療に重点を置き、ご自宅で安心して生活できる体制づくりを推進しています。

患者さまの笑顔のために 小児医療の新しい可能性を拓く

札幌市内に住む丸山奈南ちゃんは、小児NIVによってご自宅で安定した生活ができるようになり、在宅ケアを継続している一人です。運動神経細胞の病変によって起こる病気のため、呼吸不全になりやすく、以前は秋から冬にかけて肺炎を起こすことが度々ありました。しかし、2006年にNIVを導入したところ、症状が劇的に改善されました。

奈南ちゃんがマスクを付けるのは睡眠時のみ。シールやリボンでマスクをかわいく見せるといった工夫をしながら、徐々に装着に慣れて行きました。今では肺炎で入院することもほぼなくなり、月



に1回往診を受けるほかは、年1回の検査入院のみに。小学校にも通うことができ、「今の方がずっといい!」と明るい笑顔を見せます。ご家族も「効果がはっきり目に見えました。土畠先生が往診に来てくれるのでちょっとした疑問なども解消でき、すぐにサポートしてもらえという安心感があります。これからもずっと続けていきたい」と信頼を寄せます。

土畠センター長は、「お子さんだけでなく、ご家族のことまでも考えながらケアをすることが大切。そのためにも、ご自宅にうかがう往診が大切なのです」と言います。「旅行に行きたい」といった希望などにも、実現できるように支援を行っています。

小児NIVセンターの取り組みは、小児医療の新たな可能性として期待されています。これからも、患者さまとご家族の笑顔を支えるための活動が続きます。



土畠小児NIVセンター長と丸山奈南ちゃん

●過去3年間の実績

	2008年度	2009年度	2010年度
新規在宅導入者数	5名	9名	9名
紹介患者数	13名	17名	23名
在宅患者数	22名	29名	43名
外来数(延べ)	166名	159名	183名
訪問診療数(延べ)	64名	116名	267名

職員のための保育所を拡充【札幌西円山病院】【コミュニティホーム岩内】



札幌西円山病院院内保育所「西円山ピッコロ保育園」

溪仁会グループでは、職員の子育て支援の取り組みと、働きやすい職場環境の整備を進めています。その一環として、2011年4月に札幌西円山病院に隣接する「西円山ピッコロ保育園」の増床と定員増を行いました。

同病院では、開院1年後には院内に保育所を設けるなど、早くから職員の福利厚生の上昇を図ってきました。今回、乳幼児を持

つ職員が増えたことから、現場のニーズを受け、職場復帰と子育ての両立を支援する取り組みを強化。これまで駐車スペースだった保育園の1階を0・1歳児対象の保育室に改装し、受け入れる子どもの定員を30名増やしました。職員からは「職場に隣接しているので、送迎が楽で助かる」「アットホームな雰囲気、小さなお子でも安心して任せられる」と好評を得ています。

また、岩内町にある介護老人保健施設コミュニティホーム岩内でも、2011年6月から施設内保育所の新設工事を実施。11月1日に開設し、定員25名、延べ床面積271.81m²というゆとりある保育環境を提供しています。

職員一人ひとりが安心して働きながら子育てができ、充実した生活を送ることができるように支援することも、組織が果たすべき重要な社会的責任の一つです。これからも、当グループは職場環境の改善などを進め、ワーク・ライフ・バランスの向上に努めています。



コミュニティホーム岩内の施設内保育所「ゆいまる」

小児医療をさらに手厚く【手稲溪仁会病院】

近年、お子さんを対象とする医療体制の整備が求められるなか、手稲溪仁会病院の小児科では専門医療の提供や救急への対応など、小児医療への取り組みを強化してきました。



特徴としては、道内でも数少ない小児専門の循環器医療を提供していること。札幌市内だけでなく道内全域から、新生児期・早期乳児期の緊急手術やカテーテル治療などのために、多くの患者さまが来院されています。また、20週から30週頃の胎児期に心臓の異常が見つかり、他の医療機関から紹介・来院されるケースも増えています。2009年からは胎児心エコーの外来検査なども行っており、高度な検査によって疾患の早期発見や治療対応を可能にしています。

小児の救急体制も充実させています。救命救急センターの開設以来、3次救急に対応。人工呼吸管理や脳低体温療法、血液浄化、補助循環など、高度な医療技術を導入し、特に重症な患者さまの受け入れも可能になっています。患者さまの大切な生命を救うために、重症なケースには24時間体制で応じています。

2010年夏には産科病棟にNICU（新生児特定集中治療室）を

開設し、新生児の疾患にもスムーズに対応できるようになりました。将来的にはPICU（小児集中治療室）などの開設も視野に入れています。

さらに、こうした外来や病棟での取り組み以外にも、札幌市の保育サービス事業の一環として、病後児を一時的にお預かりする「こどもデイサービスセンター」を2002年から開設しています。

お子さまの生命を守り、健やかな成長を支えることが、地域における拠点病院の責務でもあります。小児の急性期医療全般に対応できるセンターとしての機能をめざし、努力を続けています。



地域とのつながり

どこに住んでいても 安心して暮らしていただくために

等しく保健・医療・福祉サービスを受けること、それは誰もが持っている権利です。

地域による保健・医療・福祉の質の格差を少しでも解消し、多くの方々が満足のいくサービスを受けられるように、
溪仁会グループでは地方における活動にも取り組んでいます。



これからは、国や都市部に
依存するだけでなく
地域に暮らす者が、
自分たちの力で
自立していくことも必要です



真狩村は人口2,200人ほど。65歳以上の高齢者が人口の30.5%を占め、他の農村部同様に高齢化が進んでいます。

現在は医師が2名常駐する診療所のほか、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどもあり、恵まれた環境といえます。ただし、地方ならではの問題も抱えています。その一つが、救急医療への対応です。地域の中核病院が医師不足などから救急部門を縮小したため、一部の重症患者は小樽市や札幌市まで搬送しなければならなくなりました。

こうした現状から、真狩村では病気や介護の予防事業に力を入れています。住民意識も高く、健康づくりの活動にも積極的に参加しています。そうした努力が医療費の低減や、高齢化社会への対応につながり、地域の自立に寄与できるということを、住民が理解している表れだと思います。

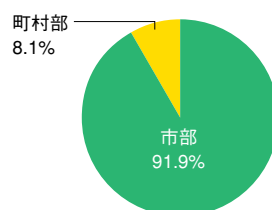
これから大切なのは、地方に暮らす私たちが自ら考え、自分たちの健康を守ること。もちろん各方面との連携も大切ですが、住民や老人クラブ等の自主的活動の支援を図り、地域ケアの推進を促すことが理想といえるのではないのでしょうか。

(2011年7月27日に真狩村にてお話をうかがいました)

社会の視点

北海道では、9割以上の医師が
都市部に集中しています

●北海道における医師の分布
(北海道保健福祉部 平成20年調査より)



北海道では、医師の9割以上が市に集まっています。また全体の5割以上の医師が札幌市とその周辺に集中する傾向にあります。

プロフェッショナル
マインド
インタビュー②

未来の地域医療を
担う人材育成

手稲溪仁会病院 後期臨床研修医

清水 平
SHIMIZU HITOSHI



コミュニティが持つ深いつながりが大きな力に。
道北の町で感じた、地域医療の可能性。

近年、手稲溪仁会病院の臨床研修部は家庭医の育成に力を注いでいます。米国家家庭医療専門医資格を持つ指導医2名を迎え、2008年に家庭医療コースを新設。地域医療の現場とも連携し、未来を担う医師を育てています。

清水医師は、後期研修プログラムの一環で、道北にある「幌加内町国民健康保険病院」での診療を経験しました。もともと地域医療を志していたという清水医師は、「患者さんの身近にいて何でも相談できる “町医者”のイメージが原点でした」と話します。

清水医師が生まれ育ったのは日高地方。当時はちょっとした病気でも都心部の病院を頼って受診する人が多く、幼心に疑問や不便さを感じていた、と言います。その一方で、寝たきりの祖父を在宅で看病し続けた祖母が、地域の相互扶助の精神やコミュニティ力に支えられるのを見ていました。そうした体験が、自然に地域医療の道へと進ませました。

「幌加内町国民健康保険病院」では、約3カ月にわたり地域医療の実情を体感しました。幌加内町は早くから地域医療への対策に取り組んできた町だけに、得るものも大きかったと振り返ります。「人口1700人ほどの小さな町なので、コミュニティのつながりも深い。特に看護師さんが把握している患者さんの生活背景まで含めた情報は、すごいデータベースでした。治療計画を立てる際や、生活習慣病の指導などにとても役立ちました」

幌加内町は中核都市の旭川市まで40kmほどと近く、市内の医療機関との連携が進んでいます。例えば、旭川赤十字病院とは電子カルテの閲覧もでき、町にいなから高度な画像診断の結果を知ること可能です。清水医師は「現場に的確な判断ができる医師がいて、あとは人や情報のアクセスさえ良ければ、距離の問題は埋められるはず」と言います。

地域の保健や福祉に携わる人たちと顔の見える連携をしたことも貴重な経験、と清水医師。名産のそば打ちを習ったり、イベントに参加したり、地方ならではの交流も満喫できた、と笑います。「これからも地域医療にかかわり続けたい。しっかりやるには一つの地域で10年20年という継続性が大切。腰を据えて地域医療に取り組んでいきたいですね」



地域の生命を支える ドクターヘリの活動

【手稲溪仁会病院】

北海道のような広大な地域は、町村部から医療の中核拠点となる都市部までが遠く、特に一刻を争う救命救急の現場では搬送時間の長さが大きな障害となっています。こうした問題を解決する手段の一つとして導入されたのがドクターヘリです。手稲溪仁会ドクターヘリチームは、道内におけるドクターヘリのパイオニアとして、救急医療の可能性に挑戦し続けています。

半径150キロ圏内をカバー スムーズな出動要請がカギ

ドクターヘリは救命救急処置が必要な現場に、救急専門医師と看護師を短時間で派遣し、迅速な治療開始を図る医療専門のヘリコプターです。それと同時に、患者さまの医療機関への搬送時間を短縮する役割も果たしています。

手稲溪仁会病院では、2年9か月間の実験運航の後、2005年より北海道で初となる道央ドクターヘリの基地病院に指定され、正式運航を開始しました。運航圏域は、手稲溪仁会病院を中心に半径150キロメートル圏内。石狩管内や後志管内のほか、空知・日高・胆振管内など、広範囲をカバーしています。

救命救急センターに所属する救急科部長奈良理医師は、フライトドクターとして活動する一人。「運航開始当初は、外傷による重傷者への出動要請が多い傾向にありました。しかし実際には、脳卒中や心不全などの内因性疾患で重篤な状態に陥り、緊急的な治療を必要とする方もたくさんいます。ドクターヘリを呼ぶレベルかどうかという見極めは難しいところですが、現在はキーワードを決めておいて、例えば「胸が痛くて冷や汗が出ている」などの症状が見られたら、迷わず出動要請をするように促しています。そうすることで、一人でも多くの患者さまの生命を救える。これは全国的な流れです」と話します。そうした取り組みが功を奏し、2010年度は648件もの出動要請が寄せられました。

医療の地域格差の解消と 救急医療の質の向上をめざす

ドクターヘリの機内には、人工呼吸器などの医療機器、医薬品、ストレッチャーなどが備えられています。出動要請があると、医師と看護師を乗せてわずか数分で離陸し、現場に急行します。「患者さまの情報は、ヘリの中で無線でやり取りをします。現場に到着するまで早ければ数分、最長でも150キロ飛んで45分。その間に現場での動きをシミュレートして、到着したらすぐに治療にあたるようにします」と奈良医師。現場での活動は15分～20分以内が目安です。医師は応急処置を施しながら搬送先を判断し、受け入れを要請し



救急科部長 奈良理医師



ます。一刻一秒を争うなかで、適切な判断力が求められます。

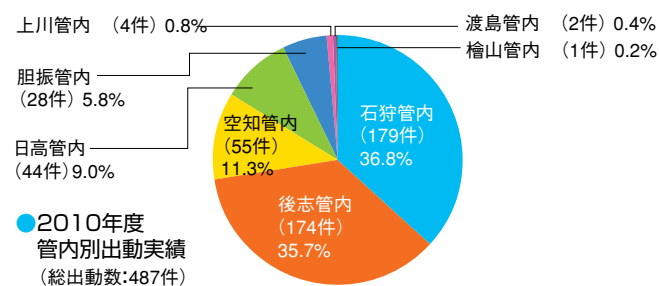
「本来、医療は万人に平等であるべき。それを実現する手段の一つがドクターヘリや、昨年試験運航が行われたメディカルウイング(ジェット機)なのです」と、奈良医師は航空医療の可能性を語ります。医療の地域格差を解消するために、誰もが平等な医療を受けられるために、ドクターヘリには大きな期待が寄せられています。

2009年度には、旭川市と釧路市においてもドクターヘリの運航が始まり、カバーできる地域が広がりました。奈良医師は、「普及が進んだこれからは、その真価が問われる」と言います。手稲溪仁会病院は北海道におけるドクターヘリの先駆として、他の医療機関とも協力・連携しながら、その有効性を実証し、救急医療全体の質の向上にも貢献することをめざしています。



●年度別運航件数

	総出動 要請件数	出動数	未出動数
2005年度	346	261	85
2006年度	496	389	107
2007年度	566	453	113
2008年度	522	430	92
2009年度	536	410	126
2010年度	648	487	161



「泊村立茅沼診療所」の運営を開始……………【医療法人溪仁会】



岡本所長

医療法人溪仁会は2010年10月より、泊村唯一の医療機関である「泊村立茅沼診療所」の指定管理者となり、その運営を開始しました。指定管理者制度とは、公的な施設の管理・運営を企業や法人などが代行し、サービスの質や経営を維持すること。同診療所では、所長を務める岡本史之医師を中心に、看護師、放射線技師、事務職員が連携し、泊村の医療を担っています。

平日の外来診療では、通院患者さまの治療のほか、健診やワクチン接種などを行っています。また、村内にある学校での健診や、高齢者施設での診察も岡本所長が担当しています。診療所内にはCTやMRIといった医療機器も備えられ、地域の初期医療をカバーできる体制が整っています。

こうした地域医療を支える活動も、溪仁会グループの重要なテーマの一つとして取り組み続けていきます。



地方健診への取り組み……………【溪仁会円山クリニック】



2008年度から、各医療保険者に特定健診と特定保健指導が義務づけられました。しかし北海道では、そうした健診を実施できる医療機関や施設が近くにないという地域があります。病気の

予防や早期発見にもつながる健診をできるだけ多くの方に受けてもらうため、溪仁会円山クリニックでは健診バスによる地方での巡回健診を、1997年から行ってきました。

現在は、地方自治体や一般企業からの要請を受け、健診バスを派遣しています。胃部や胸部X線、心電図、エコー（超音波診断装置）などの機器を備え、地方においても、都市部と変わらない検査サービスを提供しています。こうした活動を通して、地方の健康維持・増進にも貢献しています。

●2010年度地方健診実績

対象	受診者数
企業社員・団体職員 など	2,056人
市町村職員	496人
住民(岩内町)	599人
合計	3,151人

北海道の地域福祉を支える施設運営……………【社会福祉法人溪仁会】



高齢化が進む北海道では、特に地方部での福祉サービスの質の維持が課題となっています。社会福祉法人溪仁会では、1998年に介護老人保健施設「コミュニティホーム八雲」を開設したことを皮切りに、2000年には「コミュニティホーム美唄」を、2007年には「コミュニティホーム岩内」を開設。施設不足によるサービスの低下を少しでも解消し、地域の福祉を支えるため、地方部での施設運営に取り組んできました。

各施設では、入所のほか、在宅の方を支援するデイケアやショ

ートステイなどのサービスを充実させています。また、2011年3月には、「コミュニティホーム岩内」に併設されている「岩内町地域包括支援センター」において、町内の高齢者を対象にした介護予防研修会を実施するなど、地域ニーズに応じたさまざまな活動も展開しています。

高齢になっても、どこに暮らしていても、その方らしい生活ができるように。社会福祉法人溪仁会では、地域における高齢者福祉への貢献も使命の一つとして取り組んでいます。



保健活動と先端医療の提供－1

病気を未然に防ぎ、健康に暮らしていただくために

健康意識の高まりや、医療費を抑制する目的などから、現代は、病気をいかに予防するかが重要になっています。溪仁会グループは保健指導や啓発活動によって、地域の健康づくりにも貢献しています。



目標はずっと現役で働き続けること。そのためには自分の健康は自分で守るという意識が大切だと思いますね



30代後半から独立して、自分のお店を持つようになりました。個人事業主ですから、自分の体力が資本。幸い、親から丈夫な体をもらい、大きな病気一つしないので50代まで働いてきました。忙しいため、健康を意識して何かをしているということは特別になく、強いて言えば旬のものを食べるようにしたり、なるべく乗り物をつかわないで歩くようにしていることぐらい。それでも、最低限、周りに迷惑をかけないように自己管理はしています。

健康診断についても年に1度、ちゃんと受けるようにしています。女性特有のがんに関する検診なども、そうした機会に健康チェックを受けておけば安心ですから。自分では大丈夫だと思っても、過信しないように心がけています。若い頃はこんなことは考えませんでした、やはり年を重ねると、自分の健康は自分で守ろうという意識が強くなってきますね。

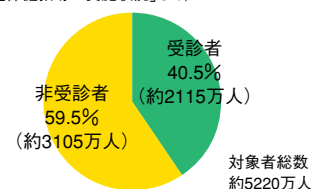
私の知り合いに、100歳になっても働いている女性があります。理想は自分もそんなふうに、ずっと現役でいること。健康なかがり、生きがいを感じながら働き続けていきたいと思っています。

(2011年8月30日に札幌市中央区の澤田さんが営む雑貨店「幸え(sakiwae)」にてお話をうかがいました)

社会の視点

特定健康診査の受診率は4割程度にとどまっています

●特定健康診査の受診率
(厚生労働省「2009年度特定健康診査・特定保健指導の実施状況」より)



受診者のうち特定保健指導の対象となったのは399万8,172人(18.9%)で、最後まで指導を終了したのは51万8,198人(13.0%)でした。

プロフェッショナル
マインド
インタビュー③

地域の健康を守る
保健指導の取り組み



溪仁会円山クリニック 副院長
埴 なぎさ
HANAWA NAGISA

治療の前にすべきことがある、という思いから健診の道へ。生活全体をとらえながら、ともに歩む指導を。

2008年4月から「特定健康診査」と「特定保健指導」が義務づけられました。健康づくりへの社会的な注目も高まりつつあり、時代は「早期発見」「治療」から、「病気を防ぐ」という考え方にシフトしてきています。

溪仁会円山クリニックでは、こうしたニーズ変化を受け、2010年6月から「生活習慣病外来」を開設。健診事業に特化した施設という強みを生かし、医師と保健師、管理栄養士などがチームになって、6カ月にわたり栄養面や健康状態の改善指導を実施しています。外来での診察を担当する埴なぎさ副院長は、「来院していただくのは1カ月ごと。短い期間でどれだけ変わるものか、と思われるかもしれませんが、ちょっと体重が増減したりするだけでも、その理由について一緒に考えることに意味がある。それがその人にとっての知識になるし、自力で結果を出す手助けになるはず」と言います。

埴副院長は手稲溪仁会病院の循環器科勤務を経て、同クリニックでの診療に携わるようになりました。「循環器科で患者さんを診て

いると、どうしてこんなになるまで、と思う人がたくさんいました。症状が悪くなってから来る人を待っているだけではいけない、なんとかしたいという強い思いが、早期発見や予防活動にかかわる仕事へと向かわせました」

健診を受けても、結果の数字を見るだけでは予防や改善にはつながりにくいもの。それをわかりやすく説明し、改善に向けた目標をつくるのも医師の役割の一つです。埴副院長は問診票だけでその人の暮らしが見えると言います。「仕事や家庭のことなど、生活全体をとらえてアドバイスするようにしていますが、あまりに的中しすぎて、占い師みたい!と驚かれることもあるほど」と笑います。

「大切なのは、その人のそばに寄り添って心身ともに支えてあげること」と埴副院長。大学時代の恩師に言われた「男性医師は病気を診るが、女性医師はその人を見る」という言葉が心に残っていると言います。その言葉通り、地域の健康を守るため、温かなまなざしで一人ひとりの生活を見つめ続けています。



保健活動と先端医療の提供－2

最新の医療技術で 生命を救うという使命

社会の高齢化やライフスタイルの変化などによって、
がんや脳・心臓などの病気を発症するリスクが高まっています。
溪仁会グループは最新の医療技術を導入し、大切な生命を救う努力を続けています。



がんになつてみて、
つくづく健康の大切さを実感。
体への負担が少ない手術を受け、
今は趣味を楽しんでいます



2010年の春頃から体調の変化を感じていましたが、老化現象かな、という程度に考えていました。周囲からは「一度病院へ」と言われましたが、仕事や趣味で忙しいうえ、「自分は病気にならない」と思い込んでいました。

病院に行くきっかけは、会社の健康診断でした。ひどい貧血という結果が出て、再検査をすることに。大腸の内視鏡検査を受けたところ、がんが見つかりました。「まさか」と思っていたので、最初の1週間はかなり落ち込みましたね。でも、早く手術をすれば、早く良くなると前向きに切り替えました。

年明け早々に、腹腔鏡手術を受けました。医師からは体に負担がかかりにくい術式で社会復帰も早い、と説明がありました。確かに、入院期間が2週間程度だったのには驚きましたね。仕事も1カ月半ほどで復帰しました。現在は3カ月ごとに検査を受けています。5年間は経過観察が必要なのだそうです。

がんになってみて、その大変さがよくわかりました。何より趣味の山歩きやスノーボードを楽しめなくなるのは辛いですね。今はすっかりもとの生活に戻りましたが、体調が悪いときは早めに病院に行こう、と思うようになりました。

(2011年7月31日に札幌市西区にてお話をうかがいました)

社会の視点

社会の高齢化に伴って、
がんの罹患率(がんと診断される割合)が増加しています

2009年にがんで死亡した人は
344,105 例
生涯でがんになる人の割合は
男性54%・女性41%
(2005年データに基づく)

(独立行政法人国立がん研究センター
がん対策情報センター「最新がん統計」より)

がんになる確率は、男女ともにおよそ2人に1人。
高齢になるほど罹患率は急増する傾向にあります。

プロフェッショナル
マインド
インタビュー④

先端の医療技術で
がんに向かう



手稲溪仁会病院 泌尿器科部長
柏木 明
KASHIWAGI AKIRA

がん診療の拠点として、挑戦できる環境がここにはある。
次代を担う医師を育てながら、医療全体の質を高めていきたい。

がんなどの手術の際、体への負担が少なく、回復も早い術式としてよく耳にするのが腹腔鏡手術です。腹部に小さな穴を開け、そこから内視鏡やメス、鉗子などを体内に挿し入れて、モニター画面を見ながら手術を行います。開腹手術に比べて手術創(傷)が小さく、痛みも少ない反面、モニター画面を見ながら機器を操作し、がんを正確に取り除く技術には、経験の積み重ねと熟練が要求されます。

手稲溪仁会病院泌尿器科部長を務める柏木明医師が同病院に着任したのは4年前のこと。2009年の「地域がん診療連携拠点病院」の指定を目前に、院内ではがん診療に力を入れていこう、という機運が高まっていたときでした。「手稲溪仁会病院は、新しい技術の導入など、常に意欲的な取り組みが行われています。それがすばらしいと思いました」

腹腔鏡手術の認定医であるとともに、がん治療認定医でもある柏木医師は、泌尿器科領域の各種がんの根治手術^(※)を担当。特に、腎がんや腎盂がん、副腎腫瘍などの根治的治療への腹腔鏡手術の導入に取り組んでいます。「腹腔鏡手術はここ10年で飛躍的に進歩しました。いかに身体への負担を抑えつつ完全にがんを取り去るか。それが普遍のテーマです」。以前は技術を身につけるのに、たいへん苦勞をしたそうですが、今は若い医師も

最先端の技術を学ぶ機会が増えている、と言います。

低侵襲の手術が普及する一方、急増している前立腺がんの全摘出手術については、腹腔鏡下の技術的困難度が高く、なかなか一般に広まらないという問題があります。この解決策として期待されているのが、手術支援ロボット「da Vinci」です(22ページ参照)。同病院では2011年秋に導入。低侵襲で精度の高い手術の汎用性が高まると注目されています。

この手術は、「da Vinci」の専門的訓練を受けた資格を持つ医師だけが行うことができます。柏木医師は先行してトレーニングを受け、若手医師に技術を伝える役割も担う予定です。「北海道の医療技術全体を底上げするためにも、自分自身を含めて、より高みをめざすのが使命。がん拠点病院としての機能を高めながら、多くの実績を積み重ねるのが目標です」

※その病気を根本から完全に治すために行う手術のこと。



最先端の手術ロボット 「da Vinci」の導入 【手稲溪仁会病院】

近年は体への負担が少ない低侵襲手術が用いられるケースが増えています。そうした手術を大きく前進させる技術として注目されているのが、手術ロボットの「da Vinci」です。手稲溪仁会病院では2011年8月に導入し、年内の本格稼働をめざしています。

体への負担軽減とともに 手術精度も高める

これまでも手稲溪仁会病院では、患者さまの体への負担を軽減するため、積極的に低侵襲手術を取り入れてきました。今回導入された「da Vinci」は、2000年にアメリカで承認を受けた手術ロボット。低侵襲性や手術精度の高さから、今では欧米各国や韓国などで導入が進められています。

「da Vinci」のメリットは、操作のしやすさ。腹部に小さな穴をいくつか開け、内視鏡カメラやメスなどの器具を挿入して手術を行うのは腹腔鏡手術と同様ですが、大きく違うのが手術部位の画像の見やすさと器具の扱いやすさです。腹腔鏡手術が平面の画像で視野も狭く、手動で器具を扱うのに対し、「da Vinci」ではクリアな3Dハイビジョン画像を見ながら、機械制御によって手術を行うことができます。この技術によって、これまでは腹腔鏡手術が難しかった前立腺の全摘出などについても、開腹しないで精度の高い手術が可能になります。

また、腹腔鏡手術は医師に高い技術力が求められるため実施できる医療機関が限られますが、「da Vinci」は操作がしやすく、低侵襲手術を行える医師や医療機関が増えると期待されています。がんなどを確実に取りながら、神経や機能を温存する手術方法が、一般的になる可能性もあるのです。



有効性と安全性を実証し 保険診療の実現をめざす

「da Vinci」は、日本では2009年に厚生労働省の認可を受けたばかりということもあり、導入数は全国でも30台未達とまだ少数です。費用が高額であること、また「da Vinci」による手術が健康保険診療では認められていないことなどから、なかなか普及が進んでいないのが現状です。同病院では、最先端医療によって治療精度を高めるだけでなく、普及を促進することによって保険診療実現の一助となることが社会的責任と考え、北海道で初となる導入を決定しました。

2011年10月現在、医師が段階的にトレーニングを行っており、前立腺(がん)の全摘出手術や子宮の全摘出手術などに11月より使用を開始しました。さらに、各科では胃がん、肺がん、子宮がんへの適用を準備中で、将来的には膀胱がんや頭頸部がんなど幅広い分野での活用も視野に入れています。



禁煙外来による適切な禁煙治療 【溪仁会円山クリニック】



日本は、医療の発達や恵まれた生活環境などから、世界1位の長寿国となりました。その一方で、がんや心筋梗塞、脳卒中といった病気を発症する人が増え、日本人の主な死因にもなっています。こうした病気の原因は、喫煙や飲酒、運動不足や偏った食事などの生活習慣にあることが明らかになり、厚生労働省では、国民の健康増進と病気予防に向けた取り組みを推進しています。

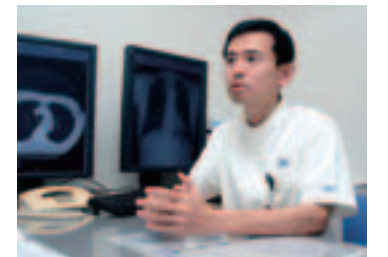
社会的にも健康づくりへの関心が高まり、特に喫煙については分煙や禁煙が進むなど、非喫煙者が増える傾向にあります。しか

し、なかなか禁煙ができないという愛煙家もまだ多く、溪仁会円山クリニックはそういう方を対象に、2010年6月から「禁煙外来」を開設。外来診療によって、適切な指導や治療を行っています。

一般的な治療期間は12週間です。期間中計5回の診察を行い、無理のない禁煙の実行と、スムーズな禁煙の継続を、医師と保健師が支援します。柱となるのは精神面を支える指導、ニコチンの禁断症状を緩和するパッチ貼付薬や内服薬による治療です。精神面のケアは、保健師がじっくりと話を聞き、その方の喫煙状況に合わせて最適な対処法を提案します。また、医師による治療も、同クリニックでの健診結果をもとにしたアドバイスや、禁煙補助薬の処方など、総合的なケアで12週間の禁煙プログラムを実施します。

「タバコをやめたいけれど、自力ではやめられない」という方の心を理解し、寄り添うサポートを大切にしながら、これからも地域の健康を守る活動を続けていきます。

禁煙外来受診者数:16名
(2010年6月～2011年10月)



回復期リハビリテーションの取り組み 【札幌西円山病院】



2000年に新しい医療制度として設置された回復期リハビリテーション病棟は、患者さまが急性期病院からご自宅へ復帰されるまでの間に、リハビリテーションによって

ADL(日常生活動作)向上を図るための専門病棟です。札幌西円山病院は回復期リハ病棟として89床を擁し、脳卒中や大腿骨頸部骨折、脊髄損傷のほか、肺炎・心不全等の治療による長びいた臥床にて廃用に陥った患者さまが入院されています。脳卒中の場合は40代という若い方もいますが、多くは高齢の方で、さらに認知症などを併発されている場合もあります。

回復期リハの最大の特徴は「在宅をめざす」という点です。リハビリテーション科主任診療部長の橋本茂樹医師は、「当院は療養型という性格上、長年にわたる高齢者リハの実績とノウハウがあります。そのため、回復期リハ病棟でも充実した高齢者リハを行うことができます。ご家族とご本人の希望を聞きながら、ご自宅への復帰を積極的に進めるようにしています」と話します。

現在の病棟スタッフは、専任の医師6名 橋本医師



のほか、看護師、管理栄養士、薬剤師、リハビリ職、医療ソーシャルワーカーなどが病棟専従体制をとり、チームでリハビリ治療にあたっています。「他の病院と比べてスタッフの数は手厚い方だと思います。チーム内の連携も取れていて、誰もが熱心に取り組んでいます」

在宅復帰率は平均して6割を何とか超す程度ですが、「それでもいい、それが当院の役割でもあるのだから」と橋本医師は言います。他の医療機関などが受け入れできなかった患者さまも引き受け、可能な限りご自宅への復帰をめざすこと、多くの方の受け皿になること。それが、高齢者医療の向上に努めてきた医療機関としての社会的責任でもあると考えています。



高齢者を支えるケアー1

いくつになっても 自分らしい生き方ができる社会へ

65歳以上人口が占める割合が全人口の2割を超え、高齢社会を迎えた現代では、「いつまでも生き生きと暮らせる地域づくり」が大きなテーマになっています。溪仁会グループは、ご自宅や地域で自分らしく暮らしていただくためのお手伝いをしています。



社会とかかわりあうことで
高齢者も生きがいや喜びを得るはず。
何ごとにも興味を持つて
チャレンジし続けるのが理想です



60歳を過ぎて老後の暮らしについて考え始めた頃、高齢者住宅というものを知り、興味を持ちました。見学したり、資料などを読むうち、「この情報を高齢者のための冊子にできないか」と考えました。パソコン教室で教えてもらいながら情報誌制作に挑戦したのが68歳のとき。そこから、住み替えの相談に応じたり、デジカメを持って取材に行ったり、という生活がスタートしました。

現在は、センターの事務所で問い合わせに対応したり、依頼を受けて講演を行ったりと、忙しく過ごしています。家に帰るとぐったりですが、必ず食事は作るようにしています。できることは自分でやるというのが基本。食事を作るのが面倒だから高齢者住宅に入りたい、と相談に見える方もいますが、「そういうところに住んでも、一食は自分で作りなさい」とおすすめています(笑)。

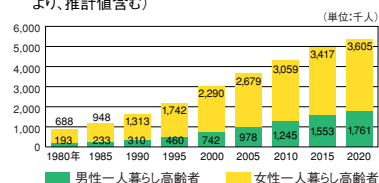
今の社会は高齢者をあまりに子ども扱い過ぎる、と気になることがあります。もっと本人の意志や能力を尊重して、自立させてもいいと思いますね。私の理想の生き方は、いつまでも好奇心を失わないこと。これから新しいことに挑戦してみたい。今は「自分史」を書いてみようと思っています。

(2011年8月4日に札幌市中央区の「あんしん住まいサポロ」にてお話をうかがいました)

社会の視点

2020年には一人暮らしの高齢者が536万人を超えると予想されます

●一人暮らし高齢者数の推移
(総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」「日本の将来推計人口」より、推計値含む)



一人暮らし高齢者数は、男女ともに増加を続け、高齢者人口に占める単身世帯割合も3割に達すると予測されています。

プロフェッショナル
マインド
インタビュー⑤

高齢者の健康を守る
デイケア活動



札幌西円山病院 通所リハビリテーション主任
今井 喜代美
IMAI KIYOMI

ご家庭にいるときに見せるのが、その方の本当の姿。
利用者さまのために、デイケアが果たす役割を追求したい。

介護を必要とする方がご自宅で暮らすことができるように、健康維持や増進に向けた支援をするのが通所リハビリテーション、別名デイケアの目的です。札幌西円山病院のデイケアでは、リハビリテーションを中心に趣味活動やレクリエーションなどを実施。院内と連携しつつ、充実したケアを提供しています。

朝9時30分を過ぎると、デイケアのご利用者さまが次々と到着します。スタッフが明るい笑顔で出迎えるなか、ひときわ元気のよい挨拶が響きます。声の持ち主は今井喜代美看護師。2011年2月から、通所リハビリテーションの主任を務めています。

今井看護師は長い間、急性期病院に勤務していましたが、自身の病気を機に休職。その後、札幌西円山病院の看護師として現場に戻り、回復期リハビリテーション病棟で、自宅復帰をめざす患者さまの看護を担当しました。「短期間ですがデイスサービスでの勤務経験があり、ケアマネジャーの資格も持っています。在宅の方の生活を実際に見たことが現在の仕事に役立っています」

入院していた患者さまがご自宅に戻ると、表情が生き生きしてくる、と今井看護師は言います。趣味やファッションなどを楽しむ利用者さまを見て、家庭で暮らしているのがその方の本当の姿なのだ、と実感したそうです。

デイケアには、現在100名を超える方が登録されています。回復期リハからの移行も多く、医師や看護師によるカンファレンス(検討会)を行った後、チーム全体でリハビリのプログラムを考えます。「ここでのケアはすべてリハビリにつながる、と考えています。大切なのは、その方の生き方や生活を理解すること」。例えば、大工さんだった方には木工作業を、お花が好きな方にはフラワーアレンジメントをというように、できる限りその方の個性に合わせた趣味活動を取り入れるようにしています。

付加価値のあるサービスをめざして、スタッフみんなで新しいことにチャレンジしていきたい、と今井看護師。2年後に開設を予定している新病院のデイケアについても、今からアイデアを出し合い、準備を進めています。



高齢者を支えるケアー2

人生の最期の時間まで その方らしく生きていただくために

溪仁会グループは、これまでの活動を通じ、多くの方々の人生と向き合ってきました。
ターミナルケアや看取りのあり方についても、ご本人やご家族の声に耳を傾け、
最期まで心に寄り添うケアを追求しています。



家族を看取った経験から
看護師を志すことに。
自分が支えてもらったように
人に寄り添う存在になりたい



高校生のときに母が胃がんになり、闘病の末に亡くなりました。最期の2カ月間はホスピスケアを提供している病院にお世話になったのですが、その間、ずっと僕を気づかい、支えてくれたのが病棟の看護師の方々でした。

受験が近かったこともあり、不安でいっぱいな日々でした。泊まり込みで母を見守り続ける僕に、看護師さんたちが「勉強、頑張ってる？」と声をかけてくれたり、不安な気持ちを聞いてくれたりしたことが心の支えになりました。看護師の道を志したのも、僕自身が助けてもらった、と心から感謝したため。医療の現場では精神面のケアもとても重要で、それができるのは患者や家族の一番身近にいる看護師なのだ、と気づいたからです。

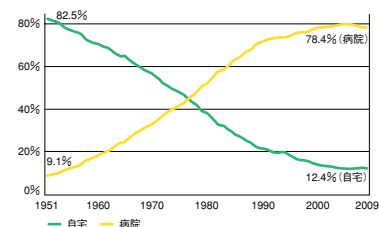
現在は大学に進学し、看護学を専攻しています。将来は、「ナース・プラクティショナー」をめざしたいと考えています。日本ではまだ導入されていませんが、アメリカでは浸透している資格で、診断や治療の一部を行うこともできる、医師と看護師の中間的な存在です。いつか患者さまとご家族の支えになることを目標に、現場でたくさんの経験を積み重ねたいと思います。

(2011年8月30日に西さんが学ぶ北海道大学にてお話をうかがいました)

社会の視点

8割近くの方が病院で亡くなっています

●死亡場所の推移
(厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」より)



国民の5割以上が最期まで自宅で療養することを希望する一方、家族の介護負担や経済問題などから、多くの方が医療機関への入院を選択しています。

プロフェッショナル
マインド
インタビュー⑥

ケアの質を高める
終末期医療への挑戦



定山溪病院 看護部 師長
現「月寒あさがおの郷」施設ケア副部長
今野 民子
IMANO TAMIKO

働く喜びがある環境だから、より良い医療を実現できる。
患者さまやご家族と心が通い合うケアをめざしています。

療養病床を中心とする定山溪病院は、高齢の患者さまが多く入院されています。そうした方へのケアの質を高めるため、同病院では慢性期医療をリードする、意欲的な挑戦を続けてきました。

師長として病棟でのケアの先頭に立つ今野民子看護師は、1994年から同病院に勤務。これまで、抑制廃止や終末期医療への取り組みなどにかかわってきました。“困難”とされる事例にも病院全体の協力体制を得て、実現してきました。「大きな転換になったのが1999年の抑制廃止宣言でした。院長をはじめとするトップが、全面的に責任を持つからチャレンジを、と支援してくれました。あの取り組みで得た経験が飛躍のきっかけになりました」と振り返ります。

2004年に開始した「終末期の意思確認書」についても、診療部と連携しながら患者さまとご家族にとってより良い終末期医療のあり方

を考えてきました。希望するケアを確認することでご家族と心が通い合い、ともにベストを尽くそうという絆が生まれた、と言います。

「リハビリ職、管理栄養士、薬剤師などがチームケアに参加し、患者さまのために何ができるかをみんなで考えるようになりました。車いすで散歩に出かけたり、ご夫婦だけの時間をゆっくり過ごしていただいたり。その方の生き方を尊重しながら、できるだけ希望に沿うケアを追究しています」

職場が生きて生きていると良いケアは提供できないという思いから、「何より大切にしたいのは、一人ひとりのスタッフです」と言い切り、朝のオムツ交換なども自ら率先して行動することで、若いスタッフが何かを学んでくれればいい、と話します。

これからは慢性期医療の役割にも変化が訪れると予測されています。「療養病床でも高度医療が求められることが考えられます。でも、どんなときも、必ずできる!と信じて社会ニーズに対応していきたい」。“実践者であり続けること”という自身のモットーを胸に、今野看護師は現場に立ち続けます。

※取材は今野さんが定山溪病院に勤務していた2011年9月1日に行いました。





療養環境の充実に向けて【定山溪病院】

定山溪病院では、長期にわたって入院を続けられる患者さまのために、療養環境の整備を進めています。2011年には、本棟に個室を増設し、より快適に過ごしていただけるようになりました。

これまで同病院の本棟には、個室が病棟ごとに1部屋ずつ、本棟全体で計4部屋と少なかったため、重症の方が入院される場合、新棟に偏らざるを得ないという実情がありました。こうした状況を改善するため、個室の増設工事を実施しました。

今回の増設工事によって、各病棟の個室が1部屋から3部屋となり、本棟全体で12部屋と大幅に増えました。新棟にある個室24部屋とあわせると、病院全体で36部屋の個室を擁することになります。

同病院の個室は、快適な療養生活への支援と重篤な患者さまへの対応を目的としています。そのためご利用いただくのは治療やケア上必要な場合で、特に重篤な患者さまやご家族に静かな時間を過ごしていただくなど、病院側が使用の判断をしています。また、部屋にはシャンプードレッサーを備え、いつでも洗髪ができるようになど心の安らぎを感じながら過ごしていただけるように配慮しています。

現場からも、「終末期の患者さまとご家族が、ゆっくりと寄り添い

ながら時間を過ごす機会が増えた」、「ご家族だけでなく、看護・介護職もとても喜んでいる」という声が聞かれています。

同病院では、今後もいっそうの療養環境の充実を推進し、医療の質の向上に努めていきます。



栄養管理チームによるサポート【札幌西円山病院】

●栄養管理ソフト(PEN)



栄養管理が必要な患者さまに対し、医師や歯科医師、管理栄養士、薬剤師、リハビリスタッフなどが連携しながら、最適な栄養支援を行うチーム医療のことをNST (nutrition support team) と呼びます。NSTを行うことで、病気の治療や回復、合併症の予防、早期の社会復帰といった効果が期待されることから、近年はこの取り組みを重視する医療機関が増えています。

札幌西円山病院では、2001年4月からNSTの活動を本格的にスタート。高齢の患者さまを主体とした療養型の病院では初めて、「日本静脈経腸栄養学会」のNST稼働認定施設として登録されました。

通常のNSTは急性期病院での実施を想定していますが、同病院では独自の実施要領を作成し、慢性期の患者さまにも適用できるようにしました。長期療養を続ける患者さまは、食物の経口摂取が困難な場合もあり、そういう方は経腸栄養や点滴などによって栄養管理を受けています。急性期病院とは違ったアプローチ方法でNSTを行うことで、患者さまの栄養問題が明らかになり、改善を図ることができました。

また、チームでは独自の栄養管理ソフト(PEN)を開発。病棟のパソコンで栄養メニューを選択すると、その内容が自動計算される仕組みで、カロリーや水分量、炭水化物・タンパク質などの栄養状態を一目で知ることができます。同病院内のすべての輸液、経腸栄養剤が登録されており、これによって管理が効率化され、患者さまの栄養状態の把握がスムーズになりました。

NSTの活動は、患者さまへのケアを改善し、医療の質を高めるために役立っています。これからはチームが連携しながら、慢性期医療に合ったNSTの役割を追求していく考えです。

ターミナルケアへの取り組み【手稲家庭医療クリニック】

手稲家庭医療クリニックの2階には、19床の入院病床「セカンドケアハウス」があります。主にがんなどで予後の限られた患者さまのホスピス施設として、またがん治療病院からご自宅に戻られるまでの移行施設として、温もりのあるケアを提供しています。

ゆったりとした病室や絵画などが飾られた廊下、ベランダからは庭の緑を見ることができ、談話スペースではボランティアさんがお茶をサービスしてく



小山内看護主任



れます。家庭的な雰囲気の中、静かな時間を過ごすことができる施設です。

小山内尚子看護主任は、「当施設ができて2年が経ち、ここの役割やケアの特徴が浸透してきたようです。他の病院から転院されてくる患者さまも増え、多くの方々にご利用いただくようになりました」と話します。ケアの特徴は、患者さまの要望にできるだけ応えるということ。例えば、一時的に帰宅して仕事の整理をしたいという方や、旅行に行きたいという方々にも、あらゆる限りのサポートを行い、実現を後押しします。「ここで過ごしていただくのは、人生のうちのとても大切な時間。患者さま一人ひとりの人格を尊重し、いかに幸せな時間を送っていただくか、を追求しています」

これからは、ケアにかかわるスタッフがより専門的な知識を身につけ、医療の質を高めていくことも目標の一つです。「ここは最期の場所ではなく、生きる場所」という小山内看護主任の言葉通り、その方らしい生活を送っていただくための施設として、多くの方に満足していただけるケアをめざしています。

野菜づくりで生き生きと暮らすお手伝い【手稲溪仁会ハーティケアセンター】

手稲溪仁会ハーティケアセンターのデイサービスでは、趣味活動の一環として、3年前から野菜作りに取り組んでいます。今年も2カ所の畑で、トウモロコシや枝豆、大根、ジャガイモづくりに挑戦しました。

宮村善英センター長は、「新しい取り組みに挑戦することで、心身の活性化を図るのが狙いです。決まった日常から抜け出すことでいい刺激になり、介護予防にも効果があります。皆さん、予想以上に熱心に取り組まれていて、反応もとてもいいですね。見学に来られたご家族が、生き生きと活動されているご利用者さまを見て、驚かれるほどです」と話します。こうした趣味活動は、認知症を持つ方も、自立した生活をされている方も、一緒に参加できるのが魅力。



多くの方と交流しながら作業することも重視しています。

昨年は10月14日と15日の2日間にわたり、収穫した野菜の販売会を初めて開催しました。手稲溪仁会病院に設けたコーナーにはジャガイモや大根などが並べられ、ご利用者さまが自ら販売も担当。お揃いのTシャツ姿で、訪れる人と楽しく会話を交わしながら接客をこなしていきま

した。ご利用者さまたちが愛情をこめて作った野菜は大人気となり、2日間ともに、すぐに完売するほどでした。宮村センター長は「販売しているときの表情が生き生きとされていました。自分たちで食べるだけではなく、誰かのために野菜を作るということが、気持ちの変化につながったのだと思います」と言います。

こうした活動は関心が高く、参加される方も増えています。これからも各ハーティケアセンターでは、ご利用者さまが楽しみながらできる趣味活動を通じて、介護予防や健康づくりに貢献していきます。



データで見る溪仁会グループ

溪仁会グループの“今の姿”が見える数字を集めてみました。
グループ全体の規模がわかるものから、ちょっとユニークな「なるほど」データまで、
当グループをもっと身近に感じてもらえる数字をご紹介します。

基本 データ 編

●溪仁会グループ施設の使用総敷地面積



グループ施設の総敷地面積は、住宅1戸あたりの延べ面積(総務省統計・全国平均92.5m²)に換算すると1,500戸分となっています。事業所平均ではおよそ2,067m²で、住宅22戸分の面積となります。

●溪仁会グループの総事業所数



●溪仁会グループで働く職員の総数



医療法人 編

●総ベッド数



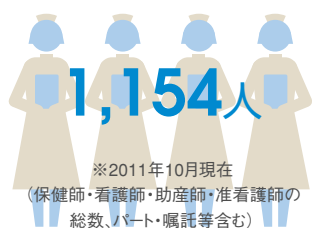
手稲家庭医療クリニックの19床から、札幌西円山病院の866床まで、提供する医療サービスやニーズに合わせたベッド数を備えています。多くのベッドを擁する医療グループとして、社会からの期待に応えながら、サービスの充実を図っています。

●医師の総数



1ベッド当たりの医師数は0.15人と、全国平均並ですが、急性期医療が中心の手稲溪仁会病院の医師数だけを見ると、1ベッド当たり0.4人となり、大きく全国平均を上回っています。

●看護職の総数



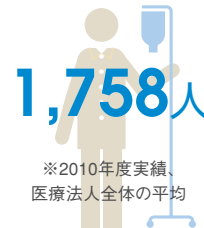
●リハビリ職の総数



●1日あたりの外来患者数



●1日あたりの入院患者数



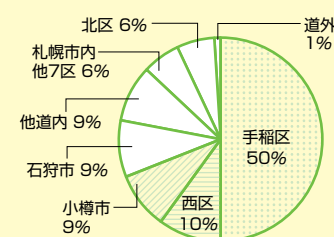
なるほど データ編

●医療法人溪仁会で活動されたボランティアさんの総数



院内の案内やレクリエーションの実施、入院患者さまの話し相手など大活躍。当グループはボランティアさんの情熱に支えられています。

●手稲溪仁会病院の年間地域別受診者割合



手稲区エリアの基幹病院であるため、手稲区の受診者数が5割を占めています。また、隣接する小樽市や石狩市からの来院も多くなっています。

●溪仁会円山クリニック健診バスの年間走行距離



地方での健診業務には巡回バスが活躍しています。2台で北海道本島の外周(約2,676km)を4.6周した計算になります。

社会福祉法人 編

●社会福祉法人溪仁会の年間入所者数



●社会福祉法人溪仁会の年間利用者数

※2010年度実績、社会福祉法人全体の延べ人数総計



財務 データ 編

●2010年度の溪仁会グループ総売上げ

(単位:百万円)



医療法人 溪仁会	経常収益	31,953	経常利益	1,769
社会福祉法人 溪仁会	経常収益	4,686	経常利益	74
株式会社 ハーティワークス	経常収益	231	株式会社 ソーシャル	経常収益 213

環境 データ 編

●電気使用量(CO₂換算)



●車両燃料(CO₂換算)



●建物設備維持燃料(CO₂換算)



●手稲溪仁会病院が回収したペットボトルキャップの累積



患者さまやご家族のご協力で集められたキャップは、NPO法人に送られ、発展途上国の子どもたちのためのポリオワクチン購入に充てられます。これまでに提供した総ワクチン数は1,470人分に相当します。

●おたるドリームビーチ清掃活動参加者



手稲溪仁会医療センターの企画で海辺の清掃活動を実施しています。6回目となった今年は、グループ職員やその家族を含め162名が参加し、砂浜でゴミ拾いを行いました。

こうした活動以外にも、各施設において、リングブル収集や施設周辺の清掃などを行い、環境改善活動やエコ意識の向上を図っています。

●研修医の1日の歩数



手稲溪仁会病院に勤務する研修医に万歩計を装着してもらい計測した結果です。忙しい研修医のイメージと比べ少ないような……。協力者によると「たまたま少ない日」だったそうです。

●ドクターヘリの平均速度



手稲溪仁会病院で運航しているドクターヘリの速度を時速に換算するとおよそ、222km/h。一刻を争う救命救急の現場で、このスピードが発揮されます。

●札幌西円山病院の建物の端から端までの距離



5つの棟が斜面に沿って続く札幌西円山病院は、南北に長い構造になっています。建物の総延長だけでも450m以上! さらに、「グループホーム西円山の丘」まで加えると、総距離はなんと715mにもなります。迷ったときは気軽にスタッフに声をかけてください。

地域とともに、保健・医療・福祉を見つめて

溪仁会グループ施設運営概要

漢仁会グループでは、地域の皆さまに安心と満足を提供することを使命と考え、
質の高い保健・医療・福祉のトータルサポートの提供にグループ全体で努めています。
皆さまに愛され、信頼される病院・施設づくりのために、マネジメントの徹底を図り、
より安定的にご利用いただける組織運営を進めてまいります。

溪仁会グループマップ





地域を支える基幹病院として 医療サービスの質向上に挑む



手稲溪仁会病院
院長 田中 繁道

当院は、札幌市の北西エリアをカバーする基幹病院として、ハード・ソフト両面での機能強化を推進してきました。近年は、地域医療を担う人材の育成と確保、がん診療をはじめとする最先端医療への対応、救命救急部門の拡充などに取り組み、それぞれに成果を挙げています。

これからの目標は、さらに急性期病院としての役割を強めることにあります。例えば、病室の個室化、各専門治療室の設置、外来化学療法部門の強化、高度な医療技術の導入なども取り組むべきテーマです。その一環として、今年の8月に道内初となる手術ロボットの「da Vinci[®]」を導入しました。こうした各部門の強化以外にも、将来的にはがんや脳、心臓に特化した高度健診センターに着手したいと考えています。

また、当院はかねてから地域医療連携を重視し、提携医療機関とのネットワークを築いてきました。現在では、数多くの医療機関にご賛同いただき、機能分担と連携協力体制が一層進んでおります。

良質な医療の提供には、働く職員のやる気や努力が不可欠です。誰もが喜びと満足を感じながら働ける環境づくりを大切にすることで、地域の皆さまに信頼される医療を実現できると考えています。これからも地域を支える病院としての使命を果たすため、皆さまと手を結びながら、より高みをめざしてチャレンジを続けてまいります。



医療法人 溪仁会

手稲溪仁会病院

札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号 TEL011-681-8111
http://www.keijinkai.com/teine/

DATA

- 稼働病床数.....550床
- 内 救命救急センター.....19床
- ICU(集中治療室).....12床
- SCU(脳卒中ケアユニット) 9床
- NICU.....3床
- 小児入院医療管理料算定病床.....25床

- 診療科目
- 内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・血液内科・腫瘍内科・腎臓内科・外科・呼吸器外科・消化器外科・心臓血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・精神保健科・リウマチ科・小児科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・産科・婦人科・眼科・麻酔科・病理診断科・放射線診断科・放射線治療科・救急科・歯科・小児歯科・口腔外科

- 主な特徴
- 救命救急センター・厚生労働省救急医療対策事業・ドクターヘリ導入促進事業実施主体(基地病院)・臨床研修指定病院・ISO9001認証(審査登録)・日本医療機能評価機構認定病院(一般病院)・DPC対象病院 など

沿革

1987年 12月	手稲溪仁会病院開院	2001年 2月	ISO9001審査登録	2007年 11月	脳卒中ケアユニット開設
1988年 7月	救急病院指定	2001年 4月	北米方式臨床研修システム導入	12月	外来化学療法室開設
1990年 3月	総合病院承認	2005年 3月	救命救急センター指定	2008年 4月	小児NIVセンター開設
1997年 4月	厚生省臨床研修病院指定	4月	ドクターヘリ正式運航開始		がん治療管理センター開設
4月	救急部開設	9月	日本医療機能評価機構認定	2009年 4月	地域がん診療連携拠点病院指定
1998年 4月	メディカル手稲開設	2006年 4月	DPC対象病院指定	2010年 7月	NICU開設
1999年 7月	開放型病床承認	2007年 5月	救命救急センター開設		
2000年 5月	手稲溪仁会クリニック開院	11月	地域連携福祉センター開設		

2010年度 診療実績

- 平均在院日数11.1日
- 病床稼働率95.6%
- 在院患者延べ数526名/日
- 外来患者延べ数963名/日
- 紹介率59.1%
- 逆紹介率33.9%
- 救急患者延べ数2,093名/月
(内救急車搬入延べ数)352名/月
- 手術件数延べ数613件/月
- 分娩件数延べ数40名/月
- 消化器内視鏡検査延べ数1,664件/月
- クリニカルパス施行延べ数571件/月
(クリニカルパス施行率)51.7%
- クリニカルパス種類240

職員状況



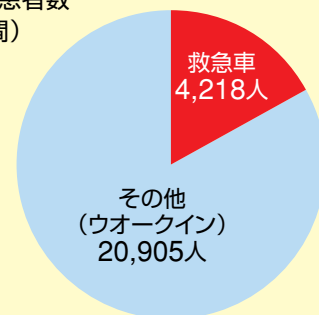
職員数
1,493人

医師224人(研修医・歯科医含む)、看護師・助産師・准看護師703人、薬剤師36人、リハビリスタッフ46人、放射線技師28人、臨床検査技師29人、臨床工学技士18人、管理栄養士11人、事務職員225人、その他173人

救命救急センター運営実績

- 専属医師：9人(後期研修医含む)
- 看護師：救命54人、手術45人、ICU 42人
- 病床利用率：救命救急病床97.3%、ICU 89%
- 平均在院日数：救命救急病床3.5日、ICU 5.2日
- 救命医療に係わる当直医：13人
(救急部2人、外科・脳外科・循環器・消化器・小児科・ICU・内科・産科 各1人、研修医)
- ドクターヘリ運航に係わる医師：救急部7人、北大1人、札幌大4人
- ドクターヘリ運航に係わる看護師：7人

搬送患者数 (年間)



医療法人溪仁会 札幌西円山病院

〒064-8557 札幌市中央区円山西町4丁目7番25号 TEL 011-642-4121
http://www.keijinkai.com/nishimaruyama/



DATA

●稼働病床数..... 866床
内 介護療養型医療施設..... 310床
療養病床入院基本料..... 298床
障害者施設等13対1入院基本料
..... 169床
回復期リハビリテーション病棟1
..... 89床

●診療科目
内科・神経内科・リハビリテーション科・循環器内科・歯科

●主な特徴
日本医療機能評価機構認定病院（療養）、ISO9001認証（審査登録）、通所リハビリ・居宅介護支援事業所併設 など

●職員状況
職員数：937人
医師34人（歯科医含む）、看護師・准看護師312人、薬剤師15人、医療技術職188人、介護福祉士63人、ケアワーカー203人、事務職員91人、その他31人

希望と喜びのある高齢者医療をめざして

当院は開院以来、高齢者医療の質を追求してきました。介護型療養病床の延長問題など、医療制度が大きく変わろうとするなか、いかにサービスの質を保ちながら、病棟改編や新しい医療体制の構築に臨むかがテーマになっています。そのため院内ではワーキンググループを立ち上げ、具体的なプロジェクトの立案・実行に取り組んでいます。また、新病院の開設も決意し、新たな挑戦も始まろうとしています。

当院では中長期のテーマとして、「高齢者の“今”を大切にす医療サービスの提供」「職員の人権とQOLの尊重」「医療と介護の質を担保する経営」を掲げています。患者さまの生活に目を向けながら、生きがいと働きがいのある職場環境を創造し、病院経営を成り立たせること。それが、この時代に求められる医療の社会的責任だと考えています。

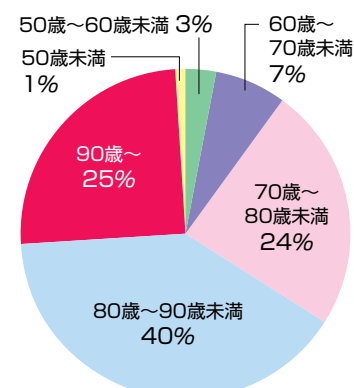


沿革	1979年 6月	西円山病院開院	2007年 3月	日本医療機能評価機構認定
	1990年 7月	医療福祉サービスセンター開設	10月	院内保育所「西円山ピッコロ保育園」新築
	12月	患者家族の会設立	2009年 11月	札幌西円山病院に改称
	2000年 6月	NSTチーム(nutrition support team)立ち上げ		
	2001年 1月	ISO9001審査登録		

2010年度 診療概要

●在院患者延べ数.....838名/日
●外来患者延べ数.....117名/日
●入院患者平均年齢.....80.9歳
●患者分類別状況
（医療療養病床入院患者）
医療区分1/24.7%、医療区分2/35.8%、医療区分3/39.5%
（介護療養病床入院患者）
平均要介護度4.03

年齢別入院患者数比



※2011年3月31日現在

医療法人溪仁会 定山溪病院

〒061-2303 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 TEL 011-598-3323
http://www.keijinkai.com/jyouzankei/



DATA

●稼働病床数..... 386床
内 医療療養病床..... 245床
一般病床..... 141床

●診療科目
内科・神経内科・リハビリテーション科・歯科

●主な特徴
日本医療機能評価機構認定病院（一般、複合）、ISO9001認証（審査登録）、慢性期医療認定病院、通所リハビリ、居宅介護支援事業所、介護予防センター併設 など

●職員状況
職員数：340人
医師15人（歯科医含む）、看護職114人、介護職109人、リハビリスタッフ52人、医療技術職14人、事務職36人

新しい慢性期医療のモデルとなるために

当院は常に慢性期医療の質の向上をめざしてきました。身体拘束廃止や全入院患者さまへのリハビリの実施、終末期医療への取り組みなど、先駆的な活動を行っています。2010年には「慢性期医療認定病院」第1号となり、当院の医療の質が改めて認められました。今年度は本棟の個室増床など、さらなる療養環境の充実に努めています。

超高齢社会を迎えた現代では、慢性期医療へのニーズは高まる一方です。当院では、第19回日本慢性期医療学会の主宰などを通じ、良質な慢性期医療の実現に寄与しています。一方、これからは“滞在型”から、ご自宅や施設などとシームレスに連携する“循環型”慢性期病院へのシフトも必要になると思われます。新たなビジョンに向け、患者さまの幸せを第一に、慢性期医療のトップランナーとしての役割を果たしていく考えです。

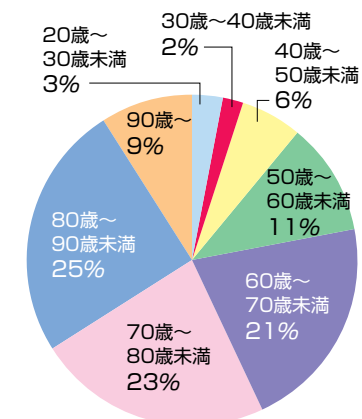


沿革	1981年 5月	定山溪病院開院	2006年 10月	新新棟完成
	1996年 10月	新棟完成	2010年 5月	慢性期医療認定病院
	1998年 11月	日本医療機能評価機構認定		
	1999年 7月	抑制廃止宣言		
	2001年 1月	ISO9001審査登録		

2010年度 診療概要

●在院患者延べ数.....382名/日
●外来患者延べ数.....36名/日
●入院患者平均年齢.....71.1歳

年齢別入院患者数比



※2011年3月31日現在

医療法人溪仁会

溪仁会円山クリニック

〒064-0820 札幌市中央区大通西26丁目3番16号 TEL 011-611-7766
http://www.keijinkai.com/maruyama/



DATA

●機能
人間ドック・健康診断専門施設 病床数6床（宿泊ドック利用）

●事業
人間ドック（日・月・1泊2日）の実施、各種健診（生活習慣病健診、一般健診、特定健診、特殊健診）の実施、保険診療（生活習慣病外来、禁煙外来、再検査）の実施、ヘルスサポート（保健指導、栄養指導、運動指導、体力測定）の実施、自治体が所有する保健施設の運動指導業務の受託

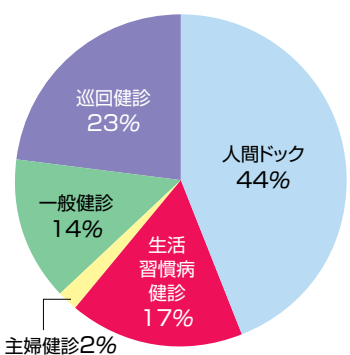
●主な特徴
健康評価施設査定機構認定病院、マンモグラフィー検診施設画像認定施設、全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施施設、ISO9001認証（審査登録）、人間ドック健診施設機能評価認定施設、優良総合健診認定施設 など

●職員状況
職員数：120人
医師4人、看護師11人、医療技術職22人、メディカルクラーク6人、保健師5人、管理栄養士2人、健康運動指導士9人、運動トレーナー12人、事務職員49人

2010年度 健診実績

●人間ドック 15,753名
●生活習慣病健診 6,315名
●主婦健診 758名
●一般健診 4,990名
●巡回健診 8,343名
●契約団体数
保険者約370団体、事業所約2,000団体
●オプション検査数
婦人科（乳がん、子宮がん、卵巣がん）18,548件／CT（頭部・胸部・腹部）3,071件／その他（胃カメラ、前立腺マーカー、骨粗しょう症ほか）14,244件

●健診別受診者数比



溪仁会円山クリニック
院長 道家 充

健診の質を高め、地域の保健活動に貢献する

当クリニックは質の高い健診事業と、継続的な指導などによって、病気の予防・早期発見に貢献してきました。健康意識が高まるなか、健診施設に対してもニーズが多様化する傾向にあります。外来による指導や、新しい検査の導入によって、そうした要望にも柔軟にえています。

現代の健診は提供する検査の種類だけでなく、総合的な質の確保が求められます。当クリニックは、日本総合健診医学会の「優良総合健診施設」と日本人間ドック学会の「人間ドック健診施設機能評価認定施設」の認定を受け、第三者からも質の高い健診を提供していると認められています。増加する医療費をおさえるために健診の役割がますます重要となっています。システムの改善や他の医療機関との連携、情報発信による啓発活動などを推進しながら、満足と信頼をいただけるサービスをめざしていきます。



沿革

1990年 1月 円山クリニック開設
2001年 2月 ISO9001審査登録
2002年 4月 溪仁会円山クリニックに名称変更
2010年 6月 生活習慣病外来・禁煙外来を設置

医療法人溪仁会

手稲家庭医療クリニック

〒006-0812 札幌市手稲区前田2条10丁目1番10号
TEL 011-685-3920
http://www.keijinkai.com/teine-karinpa/



DATA

●診療科目 内科、小児科、産婦人科
●病床数 19床
●主な特徴

セカンドケアハウス併設・はまなす訪問看護ステーション併設・日本家庭医療学会認定後期研修プログラム実施 など

●職員状況
職員数：40人
医師1人、看護師13人、看護助手7人、管理栄養士1人、技術員7人、その他11人

2010年度 診療実績

●外来延べ患者数 14,879名
●入院患者数 4,555名
●在宅（一般）患者数 347名
●往診延べ患者数 64名
●在宅（グループホーム）患者数
●訪問診療延べ患者数 1,225名
●保健予防延べ患者数 1,272名

村立診療所指定管理者

泊村立茅沼診療所

〒045-0202 古宇郡泊村大字茅沼村711番地3
TEL 0135-75-3651



地域の力をあわせ、温かみのある医療とケアを

泊村立茅沼診療所は、泊村で唯一の診療所です。2010年10月から、医療法人溪仁会がこの診療所の指定管理者となり、運営をスタートさせました。

月曜から金曜の外来診療では、一日平均40名ほどの通院に対応。健診やワクチン接種なども行っています。CT（コンピュータ断層撮影）やMRI（核磁気共鳴画像法）をはじめとした、医療機器の充実ぶりが特徴のひとつです。そのほか、保育所や小中学校での健診や、隣接する養護老人ホーム・特別養護老人ホームでの診察を担うなど、茅沼診療所は地域医療の拠点となっています。

DATA

●診療科目 内科、循環器科、呼吸器科、消化器科
●主な特徴
指定管理者制度により運営（公の施設の管理・運営を、企業や法人などが代行する制度）

●職員状況
職員数：8人
医師1人、看護師3人、放射線技師1人、事務職員3人

社会福祉法人溪仁会



地域福祉への貢献を果たすために



理事長 谷内 好

設立以来、当法人は高齢者を中心とする、地域の福祉サービスの向上に努めてきました。今年度は介護老人福祉施設「月寒あさがおの郷」の開設、円山ハーティケアセンターの移転・拡充などを行い、医療法人とも連携したシームレスなケアの提供体制を推進しています。

近年は地方からの施設運営ニーズも高く、来年度は喜茂別町での介護老人福祉施設の工事着工を予定しています。また、既存の施設運営受管の要請もあり、これは、当法人の誠実な取り組みに対する評価の表れと思っております。そうした期待にお応えするため、すべての職員のスキルアップとコンプライアンス意識の向上にも力を入れています。

当法人は来年、設立30周年を迎えます。これを機に法人理念の制定や、さらなる地域福祉への貢献などに取り組む予定です。また、職員がやりがいを持って働ける職場環境づくりも、継続してめざしています。常に社会のニーズに耳を傾け、地域の皆さまに愛される組織運営とサービスの質向上を図っていく考えです。

介護老人福祉施設「月寒あさがおの郷」開設

2011年8月8日に、新しい介護老人福祉施設「月寒あさがおの郷」を開設しました。80室ある居室はすべて個室で、10室単位のユニットケアとなっています。また、ショートステイとデイサービスの提供や、地域交流スペースの設置などで、多くの方々にご利用いただける施設づくりをめざしています。

〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2番35号
TEL 011-858-3333



DATA

- 開設 2011年8月8日
- 定員 施設入所..... 80名
短期入所生活介護..... 8名
通所介護..... 20名
居室数..... 88室

- 主な特徴
プライバシーマーク認定、社会福祉法人利用者負担減額対象施設

社会福祉法人溪仁会 介護老人福祉施設

西円山敬樹園

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3番20号
TEL 011-631-1021
http://keijinkai.com/keijuen/



DATA

- 開設 1982年4月
- 定員

施設入所.....123名
短期入所生活介護.....14名
通所介護..... 30名

- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定、居宅介護支援事務所併設、訪問介護・介護予防センター・ホームヘルパーステーション・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）併設 など

快適な生活と安心の介護

札幌西円山病院に隣接した、介護老人福祉施設で、1982年に開設しました。健康への不安や体力の低下により、日常生活に援助が必要とされる方に生活全般にわたる介護サービスを提供しております。

季節に応じた様々な行事活動を取りそろえ、体調に負担のかからない程度で、ご利用者さまの自己選択のもとご参加頂けるよう配慮しています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数174人 医師、看護師、介護職員、介護支援専門員、ホームヘルパー、生活相談員、療法士ほか
- 行事実施状況：夏祭り、園庭昼食会、敬老祝賀会、第4回家族懇談会 ほか
- ボランティア・実習生受入れ状況：ボランティア延べ238人、実習13校71人
- 研修参加・実施状況：外部研修参加45回延べ76人、複数事業所連携合同研修会2回延べ462人、内部研修延べ407人、その他各部署にて実施

社会福祉法人溪仁会 ケアハウス（軽費老人ホーム）

カームヒル西円山

〒064-0944 札幌市中央区円山西町4丁目3番21号
TEL 011-640-5500
http://keijinkai.com/calm-nishimaruyama



DATA

- 開設 1996年4月
- 定員 100名（特定施設含む）

- 主な特徴
プライバシーマーク認定、「特定施設入居者生活介護」の提供施設 など

より安心して生活できる高齢者の住まい

食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康相談及び相談助言を基本サービスとして、自立維持を目的とした施設（ケアハウス）です。

入居期間中に病気や加齢とともに身体機能や生活機能の低下が生じ、要介護状態になる方もいらっしゃると思います。このような状況に対応するため、入居者さまができるだけ末永くケアハウスで生活が送れるように「特定施設入居者生活介護」の提供施設として指定を受け、介護を必要とする方々にサービスを提供しています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数16人 看護師、介護職員、相談員、事務員ほか
- 行事実施状況：お花見、バスレク、夏祭り、ぶどう狩りなど、季節にあった行事を毎月、一般・特定利用者それぞれで企画・実施
- ボランティア・実習生受入れ状況：ボランティア延べ60人、実習2校2人
- 研修参加・実施状況：実施回数41回参加者延べ102人、その他複数の外部研修・内部研修を実施

社会福祉法人溪仁会 介護老人福祉施設 菊水こまちの郷

〒003-0814 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94番地64 TEL 011-811-8110



家庭的な雰囲気です個室型のユニットケア

地域密着型介護老人福祉施設です。介護が必要になった方が、住み慣れた地域で家庭的な雰囲気のもと暮らすことができるように、10名が1つの生活単位（ユニット）として暮らしの仲間になり、専属スタッフが日常生活のお手伝いをいたします。食事・入浴など、ごく普通の暮らし方を顔なじみのスタッフがサポートしています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数39人 医師、看護師、介護員、生活相談員、管理栄養士、介護支援専門員ほか
- 行事実施状況：夏花見、ミニコンサート、ふれあい交流会、連合町内会夏祭りほか（毎月複数回実施）
- ボランティア・実習生受入れ状況：ボランティア延べ115人、実習9校延べ963人
- 研修参加・実施状況：外部研修参加44回延べ111人、内部研修実施16回延べ375人、全職員が委員会活動に参加し、計画に基づいた外部研修参加の機会をつくらっている

社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設 コミュニティホーム白石

〒003-0024 札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号 TEL 011-864-5321



白石区における高齢者福祉の拠点

白石区の中心部にある介護老人保健施設で、地域と連携したさまざまな介護・福祉サービスを提供しています。医師、看護師等の専門スタッフが自立に向けた医療、看護、介護、リハビリテーション、趣味活動等を行い、明るく楽しい生活ができるよう援助しています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数183人 医師、看護師、介護員、支援相談員、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員ほか
- 行事実施状況：コミ白祭り、盆踊り、運動会、クリスマス会、餅つき、獅子舞、ひな祭りほか
- ボランティア・実習生受入れ状況：ボランティア延べ1,889人、実習18校148人
- 研修参加・実施状況：外部研修70回延べ119人、内部研修12回延べ303人、その他各部署で多数実施

社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設 コミュニティホーム八雲

〒049-3117 二海郡八雲町栄町13番地1 TEL 0137-65-2000



地域の介護拠点としてさまざまな支援事業を展開

高齢になっても住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生活できるようお手伝いする介護老人保健施設です。大勢のケアのプロフェッショナルが、チームワークを生かして医療とリハビリテーション、日常生活の援助など総合的なケアサービスを提供しています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数68人 医師、看護師、療法士、介護支援専門員、介護員、相談員、管理栄養士ほか
- 行事実施状況：映画上映会、毎月の誕生会、山車行列見学などのほか、12月～3月なべの日・寿司の日など通所利用者とともに楽しむ
- ボランティア・実習生受入れ状況：ボランティア延べ298人、実習は養成学校・高校など延べ90人
- 研修参加・実施状況：外部研修56回延べ96人、内部研修19回延べ268人

DATA

- 開設 2007年7月
- 定員
- 施設入所…………… 29名
- 小規模多機能型居宅介護………… 25名
- （通い15名、泊まり・全室個室5名）
- 主な特徴
- プライバシーマーク認定

社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設 コミュニティホーム美唄

〒072-0016 美唄市東5条南7丁目5番1号 TEL 0126-66-2001



地域のニーズに応じて家族の介護負担を軽減

介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で生活しながら家庭生活への復帰をめざせるよう、美唄市とその近郊にお住まいの方に信頼度の高いサービスを提供する介護老人保健施設です。開設当初から雪氷冷熱エネルギーを利用した「雪冷房システム」を採用して、地球環境に配慮した施設運営も行っています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数70人 医師、療法士、看護師、ケアワーカー、栄養士、ソーシャルワーカー、事務員ほか
- 行事実施状況：お花見、ドライブ、納涼花火大会、焼き芋、敬老会、もちつき、甘酒パーティーほか、ご利用者さま、ご家族さまの要望等を聞きながら、皆さまに喜ばれる行事を実施している
- ボランティア・実習生受入れ状況：延べ250人、実習4校延べ49名
- 研修参加・実施状況：80回延べ283名、人材育成のため積極的に各種研修を受講している

社会福祉法人溪仁会 美唄市東地区生活支援センターすまいる

〒072-0015 美唄市東4条南5丁目1番4号 TEL 0126-66-2525



医療・保健・福祉サービスの紹介や手続きを代行

高齢者や障がいのある方、そのご家族の代理人として、医療・保健・福祉にわたるサービスの紹介・相談・調整・手続きなどを行っています。通院介助を対象とした制度外訪問介護事業、地域の高齢者や障がい者を対象とした福祉入浴事業も実施しています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数48人 ケアマネジャー、訪問介護員、看護師、ケアワーカーほか
- 行事実施状況：（通所介護事業において）お誕生会、お花見会、お茶会、敬老会、クリスマス会など
- ボランティア・実習生受入れ状況：延べ54人（通所介護事業所）、実習延べ56人（訪問介護・通所介護事業所）
- 研修参加・実施状況：各種研修延べ112人、その他訪問介護、通所介護、居宅介護支援の各事業所研内修を毎月1回開催

社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設 コミュニティホーム岩内

〒045-0024 岩内郡岩内町字野束69番地の26 TEL 0135-62-3800



地域の方々が安心して暮らしていく施設づくり

岩内町とその周辺を中心とした、後志地区の介護拠点としての機能を担っている介護老人保健施設です。自宅から移り住まれる入居者一人ひとりの生活を大切にすることをめざし、全室個室、10床を1ユニットとしたユニットケアを導入しています。

2010年度 運営概要

- 職員状況：職員数94人 医師、理学療法士、作業療法士、栄養士、看護師、ケアワーカー、ソーシャルワーカー、事務員
- 行事実施状況：お花見、夏祭り、敬老会、紅葉ドライブ、餅つき、お雞様など、施設全体で行う行事には家族の参加も呼びかけて多くの参加を得ている
- ボランティア・実習生受入れ状況：入居者を対象とした詩吟教室、入居・通所にて書道教室を継続
- 研修参加・実施状況：看護・介護基礎研修、新人研修のほか、全職員を対象としたユニットケア研修を実施

DATA

- 開設 2000年4月
- 定員
- 施設入所…………… 80名
- 通所リハビリテーション………… 50名
- 主な特徴
- ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定

DATA

- 開設 1999年4月
- 事業内容
- 通所介護（一般型30名）、訪問介護、居宅介護支援、ライフサポートアドバイザー、福祉入浴
- 主な特徴
- ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定

DATA

- 開設 2007年4月
- 定員
- 施設入所……………100名
- （短期入所療養介護含む）
- 通所リハビリテーション………… 40名
- 主な特徴
- プライバシーマーク認定、岩内町地域包括支援センター、訪問看護ステーション岩内併設など

溪仁会グループでは、地域に根ざした6つの「ハーティケアセンター」がデイサービスやショートステイといったサービスを提供。ご利用者さまとご家族が少しでも快適な在宅生活を続けられるように支援を行っています。

社会福祉法人溪仁会
 豊平ハーティケアセンター

〒062-0009 札幌市豊平区美園9条5丁目4番21号 TEL 011-831-5000



DATA

- 開設 2009年4月
- デイサービス
通所介護（一般型）…………… 70名
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定

2010年度
 運営概要

- 職員状況：職員数28人 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 行事実施状況：運動会、お食事ツアー、買い物、千歳飛行場ツアーなど実施
- ボランティア・実習生受入れ状況 ： 関わり、趣味活動、演奏会等多数実習生年間365人
- 研修参加・実施状況：多数参加、全職員が一度は研修に参加する機会を確保

社会福祉法人溪仁会
 新琴似ハーティケアセンター

〒001-0912 札幌市北区新琴似12条7丁目1番45号 TEL 011-763-5500



DATA

- 開設 2009年4月
- デイサービス
通所介護（一般型）…………… 60名
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定

2010年度
 運営概要

- 職員状況：職員数25人 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 行事実施状況：各種外出ツアーのほか、沖縄料理、九州料理、四国料理などの特別昼食会を多数実施
- ボランティア・実習生受入れ状況：会話・趣味など定籍35人 実習生延べ160人
- 研修参加・実施状況：グループ内外主催の研修に多数参加

社会福祉法人溪仁会
 手稲溪仁会ハーティケアセンター

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目2番8号 TEL 011-685-3141



DATA

- 開設 2009年4月
- デイサービス
通所介護（一般型）…………… 65名
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定、指定居宅介護支援事業所・介護予防センター併設

2010年度
 運営概要

- 職員状況：職員数35人 生活相談員、看護職員、介護職員、介護支援専門員、支援相談員ほか
- 行事実施状況 ： 各種外出ツアーのほか、畑活動（種まき、収穫、販売）を実施
- ボランティア・実習生受入れ状況 ： 登録ボランティア30人 実習生延べ80人
- 研修参加・実施状況 ： グループ内外主催の研修会に多数参加、新しい試みとして手稲区内の通所事業所で合同研修会を開催

社会福祉法人溪仁会
 円山ハーティケアセンター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西19丁目1番地2ファミール第2大通 TEL 011-632-5500



DATA

- 開設 2009年4月
- デイサービス
通所介護（一般型）…………… 75名
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定

2010年度
 運営概要

- 職員状況：職員数32人 生活相談員、看護職員、介護職員ほか
- 行事実施状況：各種外出行事の他、夏祭り、クリスマス会等を実施
- ボランティア・実習生受入れ状況：定期、趣味活動など登録ボランティア約50人、実習生約350人
- 研修参加・実施状況：各種外部研修のほか、施設内勉強会を年8回実施

社会福祉法人溪仁会
 青葉ハーティケアセンター

〒004-0021 札幌市厚別区青葉町4丁目10番27号 TEL 011-893-5000



DATA

- 開設 1999年12月
- デイサービス
通所介護（一般型）…………… 60名
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、プライバシーマーク認定、指定居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション併設

2010年度
 運営概要

- 職員状況：職員数34人 生活相談員、看護職員、介護職員、介護支援専門員、作業療法士ほか
- 行事実施状況：各種外出ツアーのほか、毎月2回入浴デイ（変わり湯）、11月より毎月買物の日を開催
- ボランティア・実習生受入れ状況 ： 延べ1,932人 実習生延べ179人
- 研修参加・実施状況：通所介護、居宅介護、訪問看護におけるグループ内外主催の研修に多数参加

医療法人溪仁会
 おおしまハーティケアセンター

〒988-0604 宮城県気仙沼市廻館55番2号 TEL 0226-26-2272



DATA

- 開設 2000年2月
- デイサービス
通所介護（一般型）…………… 30名
- ショートステイ…………… 9室
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、在宅介護支援センター・訪問介護ステーション・ホームヘルパーステーション併設

2011年3月11日の東日本大震災にてセンターが被災しましたが、その後復旧に取り組み、9月12日から施設運営を再開しました。この間、職員は精力的にボランティア活動を行いました。避難所での機能体操、家々を回り相談を受けたり家事をお手伝いする活動、地域の福祉施設のスペースで通所介護的な活動も行いました。なお、関係各位からの義援金、ボランティアグループからの物資のご提供に感謝を申し上げます。

株式会社ハーティワークス

〒003-0030 札幌市白石区流通センター1丁目7番54号北新ビル1階 TEL 011-863-8010

福祉用具のレンタルや販売を中心に
 自宅での暮らしの安心を支えています

福祉用具のレンタル・販売、車いすのオーダーメイド製作や出張修理、住宅改修などの在宅サービスを中心に提供しています。介護が必要な方や障がいのある方が自分らしい生活を送ることができるよう、ニーズに合った質の高いサービス提供をめざしています。

- 福祉用具貸与利用者 ……………7,930名
- 特定福祉用具件数 ……………275件
- 住宅改修件数 ……………194件
- 車いす製作件数 ……………273件

2010年度
 運営概要

株式会社ソーシャル

■ソーシャルヘルパーサービス白石／〒003-0808 札幌市白石区菊水8条2丁目2番6号 TEL 011-817-7270

■ソーシャルヘルパーサービス中央／〒060-0007 札幌市中央区北7条西17丁目11 TEL 011-633-1771

■ソーシャルヘルパーサービス西 ／〒063-0828 札幌市西区発寒8条10丁目4番20号 TEL 011-669-3530

ヘルパーがご利用者さまのご自宅を訪問
 身体介護や生活援助をご提供しています

地域のケアマネジャーが作成したケアプランに沿って、ヘルパーがご利用者さまの自宅に訪問し、訪問介護・予防サービスを提供する「訪問介護事業」を行っています。要介護の認定を受けた方には訪問介護として食事や入浴などの身体介護や生活援助を、また介護が必要となる前に要支援の認定を受けた方には、介護予防訪問介護として家事のお手伝いを行います。

ソーシャルでは、ご利用者さまにとってより身近で頼りやすい存在をめざし、札幌市内に3つの事業所を配置しています。各事業所には介護福祉士およびホームヘルパー2級以上の資格を持ったヘルパーが登録されており、迅速できめ細やかなサービスを提供しています。

- 訪問介護利用者 ……………3,041名
延べ利用回数34,958回
- 介護予防訪問介護利用者……………3,650名

2010年度
 運営概要

溪仁会健康保険組合

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2番1号 サンビル6階 TEL 011-641-1002

独自の健康保険組合の運営によって
 誰もが健やかに働ける環境づくりをめざしています

溪仁会健康保険組合は、職員の福利厚生の実をめざして設立されたもので、医療と福祉の法人では北海道初のケースです。当グループは、職員とその家族の健康を守ることは医療・福祉サービスの提供者としての責任ととらえています。被保険者の職員とその家族に対し、生活習慣病予防や健康管理などニーズに適した柔軟かつきめ細やかなサービスを実施し、これからも職員が安心して仕事に臨むことができる環境を整えています。

DATA

- 開設 2005年1月
- 職員状況
職員数14人 ホームヘルパー1・2級資格者、介護支援相談員資格者、福祉用具専門相談員ほか
- 業務概要
福祉用具のレンタルおよび販売／住宅改修全般の相談・施工／病院・施設内の備品、家具、福祉機器、ユニフォームの販売／車イスのオーダー製作および修理
- 主な特徴
ISO9001認証（審査登録）、介護保険指定居宅サービス事業者（福祉用具貸与・販売、住宅改修）、障害者自立支援法補装具委託事業者、障害者自立支援法 日常生活用具委託事業者



DATA

- 開設 1998年7月
- 職員状況
職員数118人 1級ヘルパー、2級ヘルパー、介護福祉士ほか
- 業務概要 ホームヘルプサービス事業

支持される組織をめざして

溪仁会グループ全体の取り組み

溪仁会グループは、地域の皆さまから信頼される組織であるために、さまざまな取り組みを展開しています。職員一人ひとりがやりがいを感じられる職場環境の形成やコンプライアンス体制の整備、独自のマネジメントシステムの構築などを推進することで、誠実な組織風土を築き、社会的責任を果たすことをめざしています。

働く意欲とキャリア形成を支援する職員研修

溪仁会グループは、すべての職員が常に学びながら、人間としての成長やキャリアアップを図ることができる組織づくりを行ってきました。特に職員研修は最も重要な人材育成の取り組みとして継続的に実施しています。

階層・年代別の研修、職員合同研修などは、グループ全体に共通する課題の研修です。新人研修や役職者研修といった「階層別研修」は、グループ内の全組織から職員が集まり、各階層に合ったテーマについて研修を行います。「年代別研修」は、20代後半から50代の職員を対象に、年代ごとの研修を行い、主にキャリア形成を支援します。

「職種別研修」は看護職やリハビリ職というように、対象となる職種に対し、組織内を横断する形式で研修を行います。また、各病院・施設ごとに行う「職場業務研修」は、それぞれの職場環境に適した研修プログラムを実



施しています。

当グループは、職員の積極的な意欲を尊重しています。研修によって学ぶ機会を提供することにより、当グループのサービスの質向上を図るだけでなく、働きながら成長し続けることの喜びや意義を感じてもらいたいと考えています。

●2010年度実施 溪仁会グループ研修会

名称	回数	対象	参加人数
新人フォローアップ	全6回	新入職員	216名
若手選抜者	全3回	勤続3～5年目の一般職員	102名
中堅選抜者	全3回	勤続5年以上の一般職員	94名
新任役職者	全1回	新任(2年以内)の役職者	51名
新任役職者フォローアップ	全1回	新任(2年以内)の役職者	48名
中堅役職者A	全1回	2年以上の役職経験者	37名
中堅役職者B	全1回	2年以上の役職経験者	31名
中堅役職者C	全1回	2年以上の役職経験者	22名
中堅役職者D	全2回	2年以上の役職経験者	13名
年代別キャリアデザインI	全1回	20歳代の一般職員	54名
年代別キャリアデザインII	全2回	30歳代の一般職員	72名
年代別キャリアデザインIII	全1回	40歳代の一般職員	21名
幹部職員セミナー	全1回	役職者以上	190名
職員合同研修会	全1回	全職員	501名
看護管理者研修会	全2回	役職者以上	108名

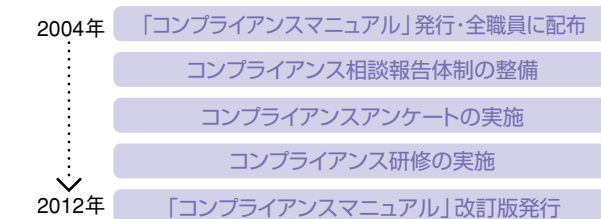
コンプライアンス体制の堅持に向けて

人々の暮らしにとって大切な保健・医療・福祉サービスを支える溪仁会グループにとって、コンプライアンスは組織活動の基盤であり、社会的な義務でもあります。2004年からグループ内におけるコンプライアンス体制の確立に向けて、啓発活動やマニュアルの制作、コンプライアンス相談報告体制の整備などを行ってきましたが、これからはより組織の実情に即した展開を図る時期と考え、新たな取り組みを開始しました。

その一つが、職員の行動基準となる「コンプライアンスマニュアル」の見直しです。2010年より、各病院の総務課長を中心としたワーキングチームが定期的に検討作業を開始。当グループの「サービス憲章」に対応して策定した46の行動基準が従来よりも各職場や職員にとって、より身近で、活用しやすいものとなることを改訂の柱としています。また、社会的責任の国際規格である「ISO26000」の視点も取り入れ、「法令等の遵守」にとどまらない、「社会の要請に応える」というコンプライアンス意識が組織全体によりいっそう根付くことを目標としています。この新マニュアルは2011年度中に発行する予定です。

コンプライアンス体制の堅持は、当グループが目標とするCSR経営を確実に実行するうえで欠かすことのできない重要な課題の一つです。地域社会から信頼される組織であることはもとより、職員一人ひとりのプロフェッショナルマインドを育成し、やりがいと喜びを感じられる職場環境の形成にもつながる活動と位置づけています。当グループとかかわるすべてのステークホルダーの皆さまの期待や要請に誠実に応える組織であり続けるために、これからもコンプライアンスへの取り組みを継続していきます。

●溪仁会グループのコンプライアンスへの取り組み



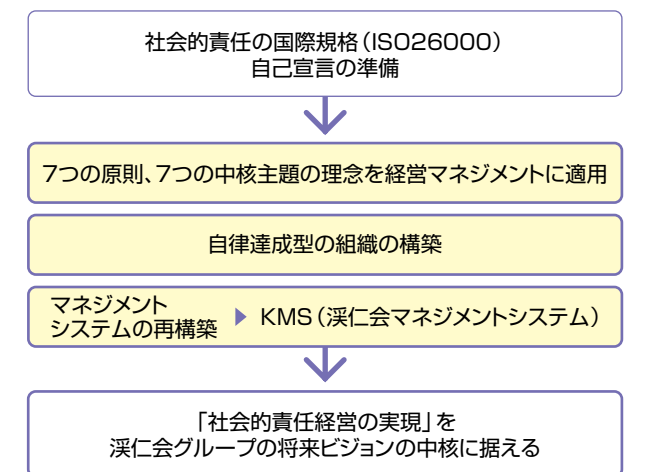
ISO26000への対応

2000年代から企業や組織のSR(社会的責任)が注目されるようになり、今では一般的な言葉として定着してきました。溪仁会グループは、2006年に「CSR経営」を宣言。医療・福祉サービスを提供する者としては日本で初めて「CSRレポート」を発行するなど、いち早く社会的責任に基づく組織運営に取り組んできました。

こうしたSRへの取り組みは世界的な流れとなっており、2010年11月には社会的責任の国際規格である「ISO26000」が発行されました。これは従来のISOのような第三者評価(認証規格)ではなく、SRを推進するうえでの目安が示されたガイドランスとなっています。当グループではこれまでのCSR経営をより確かなものにするため、ISO26000の指針をもとにした「社会的責任の自己宣言」の準備を進めています。

ISO26000では、基本とすべき「7つの原則」と「7つの中核主題」が示されています。当グループでは上述のCSR経営の確立と自己宣言を実現するうえで、これら原則と中核主題を当グループの活動にどのように適合させ、取り入れてい

くか、独自のマネジメントシステム「KMS」の構築(次項参照)と同時に検討を開始し、未来に向けた新たなビジョン策定をめざしています。



独自のマネジメントシステム構築の取り組み

溪仁会グループは質の高いサービスを提供するための組織づくりをめざし、品質に関するISO9001と環境に関するISO14001の国際マネジメント規格、個人情報保護に関するプライバシーマークなどの第三者評価を積極的に活用してきました。こうした取り組みが組織全体にほぼ根付いたこと、また2011年度から当グループの新たな中長期計画がスタートしたことを受け、組織にとってより効率的な仕組みの確立と運用をめざし、独自のマネジメントシステム「KMS=溪仁会マネジメントシステム」体制を推進することになりました。

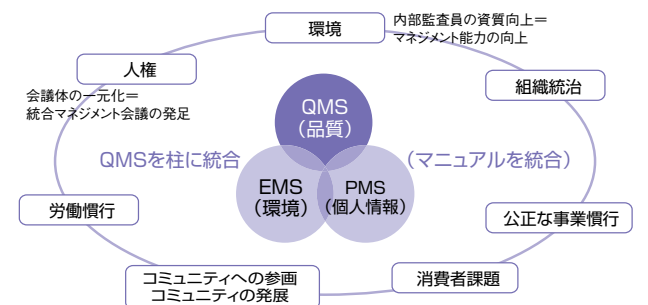
これまでは、品質・環境・個人情報の各マネジメントシステムを別々に運用してきましたが、「KMS」ではこれらを一元化。品質に関するISO9001を柱に、一つのシステムとして統合することをめざしています。これに伴い、ISO14001とプライバシーマークは2011年秋で更新を終了しました(プライバシーマークは社会福祉法人のみ継続中)。

「KMS」構築は、組織の社会的責任の国際規格であるISO26000への取り組みの前提にもなるものです。これまで培

ってきたISOのマネジメントシステムをもとに、ISO26000の「自己宣言」に向けた準備とも連動しながら、当グループにとって有効性と効率性の高いシステム構築を図ることを重視しています。現在は「KMS会議」を中心に、各ワーキンググループや委員会などが協議を進め、2011年度中にグループマニュアルの統合を行う予定です。

■溪仁会グループ独自の「KMS」の構築

CSR経営の実現のために、ISO26000の7つの原則、7つの中核課題を適用し、独自のマネジメントシステムとしてアプローチする





溪仁会の進む道

溪仁会グループ最高責任者
医療法人溪仁会 理事長

秋野 豊明

これまでの総括～

第1期中期5ヵ年経営計画を終えて

2004年に私は理事長に就任し、第二の創業期に溪仁会グループの経営をオーナー経営から組織経営へ転換する役割を担うことになりました。大規模で多様な事業体の組織経営には、全職員が明確な理念を共有することが最も重要です。その理念として、医療・保健・福祉の社会的な役割と責任を自覚した経営により、社会から信頼を得て、地域に信頼されるブランドの形成を目指す「社会的責任（CSR）経営」の旗を掲げ、新しい溪仁会を目指すことを宣言したのです。

この理念に基づいて、2006年に立案した中期5ヵ年経営ビジョンは、第1に「**社会的責任（CSR）経営の確立**」、第2に医療制度改革による新医療計画のもとにおける「**グランドデザインの実現**」、そして第3には、そのための人材の確保など組織基盤の強化と財務力の増強による「**経営の安定と効率化**」の3本柱の基本方針をたて、厳しい経営環境にあっても溪仁会の展望を切り開いていく決意で臨んでまいりました。

それから5年たち、社会の要請に誠実に応えるCSRの理念は、ガバナンス、経営マネジメントシステムやコンプライアンス体制の整備、社会との調和を図る環境保全活動や広報活動、そして人材育成の職員研修の充実などを通じて、組織の中になんり浸透してまいりました。このビジョンに基づき、それぞれの病院・施設は、患者さま・利用者さまを第一に考える医療やケア、地域との連携、そして自己研鑽・自己変革などのCSR経営に専念してまいりました。また、国の医療計画に基づくそれぞれの病院・施設のポジショニングを展望したグランドデザインは、例えば4疾病5事業の医療計画に基づく地域医療連携の強化、家庭医療クリニックの新設、療養病床の再編と回復期リハ病棟の設置、介護保険施設の整備など着実に実現しつつあります。

経営の成果を測る種々な指標がありますが、単純に第1期中期計画の開始時と計画終了時における溪仁会グルー

プの職員総数と収益だけを比較すると、それぞれ約18%と約16%の増加となり、CSR経営の要件のひとつである事業の継続性は発展的に確保できたと言えます。

このように溪仁会グループ挙げての精励の結果、この第1期中期計画は着実に相当程度の成果を残すことができて、**今後に連なる展望と意欲をもつことができた**と総括することができます。

これからの道～

第2期中期5ヵ年経営計画へ

第1期の5年間で実践された成果を踏まえ、医療と介護政策の方向性を見極めて、これから一層社会から評価され信頼される溪仁会になり、次なる展望を切り開くために、第2期中期5ヵ年経営計画をたてました。

これからの社会における大きな変化は、高齢者の増加、家族介護力の低下、地域のサポート力の低下などで医療と介護の需要は益々高まってくるのは確実ですが、現実にはこのような変化に対して医療と介護の提供体制は不十分であり、非効率なのが実態です。

このように世の中が変化する中で、溪仁会は第2期中期5ヵ年経営計画においてどのような道を進むべきでしょうか。第1期に確認したように、溪仁会の事業は、社会のセーフティネットの役割を担い、切れ目ない医療・保健・介護のサービスを通じて社会的責任を果たすことです。すなわち、基本方針はぶれることなく、引き続き「**CSR経営をより確かなもの**」にしていくことが**第2期中期経営ビジョンの基本命題**です。

次に、将来への展望を切り拓くために、現在検討いただいているそれぞれの病院、施設の将来計画に沿った**プロジェクトの実現**を目指します。これは**第2期中期経営ビジョンで最も重要な課題**です。そのために、医療・介護政策を的確に見定め、必要かつ十分な医療資源を確保し、継続的に発

展していく体制を構築することが重要です。

これらの基本命題や課題を達成するためには、職員が誇りを持って職務に専念する環境を整備し、社会や地域からの期待に応え、評価を得て、溪仁会ブランドを作り上げていく努力が求められます。これが溪仁会のこれから5ヵ年の方向性です。

この方向性を具現化するために、2011年からの**第2期中期経営ビジョンに3つの柱**をたてました。**1) 信頼される医療・福祉・介護サービスの提供**、つまり各プロジェクト事業の具体化と実施、医療と介護の切れ目ない循環型サービスの提供、**2) 誇りが持てる医療・福祉の環境**、つまり人財（材）とする職員が誇りを持ち、専門性を発揮し、長く職務を継続できる労務対策や職場環境の整備と職員の「やりがい」を支援する職場風土の構築、**3) CSR経営の実行**。第1期ビジョンのCSR経営の確立では理念の浸透が課題でしたが、第2期ではCSR経営をいかに確実に実行するかが問われます。

それぞれの病院、施設ではこの中期経営ビジョンに基づいて基本方針を立案し、バランスト・スコアカードで検討、実施、検証して確実に次のステップへ大きく歩んでほしいと思います。これが、これからの溪仁会の進む道です。

CSR経営を支える組織風土

このような溪仁会のCSR経営を支える基本的な視点は、働く人たちが「やりがい」を持ち、自主性や創造性を発揮できる自由闊達な組織風土を大切にすることです。医療・福祉の領域で働く人々は、職業的使命感と仕事への誇りを持っており、そのような高い志を持つ人たちによって組織は支えられています。そこに働く人々が組織の価値、つまり医療・介護の質や経営の質を決めるのです。そこに働く人たちが最大限に能力を発揮できるような組織を作り上げることが、“溪仁会の進む道”を確かなものにしていくと信じています。



東京交通短期大学 学長
田中 宏司（たなか ひろし）様

1959年中央大学法学部卒。1954年～90年日本銀行勤務の後、早稲田大学大学院講師等を経て、2002年～06年立教大学大学院教授。(社)経営倫理実践研究センター理事・首席研究員、経済産業省「ISO26000JIS化本委員会」委員等。著書多数。

溪仁会グループは、前年度から「「ずーっと。」それはみなさまの一生に寄り添うこと」を掲げ、継続してCSR活動に取り組んでいます。本年度は、東日本大震災にかかわるグループの使命、溪仁会グループが目指すCSRの姿、「ずーっと。」を支える組織の状況などについて、現場で生き生きと働く人々の姿を織り込んでまとめています。

（大変優れていると評価できること）

第1は、東日本大震災において溪仁会グループが、災害医療活動を見事に成し遂げたことです。専門医療チーム（「DMAT」、1995年の阪神・淡路大震災を機に発足）が、地震発生直後から待機し、3月12日早朝に自衛隊機で花巻市に向かい、空港内に医療拠点を立ち上げたほか、県立釜石病院での医療支援などを24時間体制で行いました。迅速な活動開始こそが使命との理念のもと、生命を救い、精神的な支援に尽力しました。

第2は、理事長のトップメッセージ「溪仁会の進む道」では、第1期中期5カ年経営計画終了を総括したうえで、これからの道として第2期中期5カ年経営計画を立てていることです。引き続き「CSR経営をより確かなもの」にすることを基本命題として掲げ、CSRの実践を目指しています。これこそが、医療・福祉の領域で働く人々の職業的使命感の高揚、仕事への誇り、高い志を生かせる組織づくりにつながる大きな道と確信します。

第3は、溪仁会グループは、「医療・保健・福祉の複合事業体である」という姿を、①誕生～子育てを支える、②地域とのつながり、③保健活動と先端医療の提供、④高齢者を支えるケア、に区分して丁寧に説明していることです。それぞれに「プロフェッショナルマインドインタビュー」を設け、笑

顔で働く現場の人々の声と写真を掲載しています。

第4は、溪仁会グループ施設の概要と運営実績を簡潔に解説していることです。まず、グループマップにより所在地を明示し、次いで医療法人と社会福祉法人とに分けて、それぞれの施設の概要、沿革、医療実績のほか、施設リーダーのメッセージを写真入りで解説しています。また、溪仁会グループのデータも掲載しています。これは、まさに“溪仁会グループの施設概要と使用手引書”となるもので、利用者にとり大変平易で読みやすく活用できるよう工夫されています。

（更なる発展を期待すること）

第1は、社会の人々は、東日本大震災を経験して、家族の絆、地域社会の大切さ、災害医療活動の重要性などについて、人と人との関係を軸に強い関心を示しています。溪仁会グループは「医療・保健・福祉の複合事業体である」だけに、トップのリーダーシップのもと全員が“本業の遂行とCSR活動は一体である”との使命感で引き続き取り組むよう期待します。

第2は、社会的責任の国際規格ISO26000は、2012年には日本工業規格（JIS）となります。当グループとしては、すでに中核主題などを実践に組み入れています。今後とも様々な社会的課題の解決のために、溪仁会グループだからこそ取り組むべき課題を、経営戦略に織り込み柔軟に対応することを望みます。

溪仁会グループのCSR活動は、トップのリーダーシップのもと、地域の人々とともに素晴らしい実績を残しています。今後とも、CSR経営を推進し持続的な発展を遂げられますよう大いに期待しています。

溪仁会グループ施設一覧

保健
溪仁会円山クリニック 札幌市中央区大通西26丁目3-16 ☎011-611-7766

治療とケア
手稲溪仁会病院 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-681-8111

手稲溪仁会クリニック 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 ☎011-685-3888

手稲家庭医療クリニック 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-685-3920
--

療養とケア
札幌西円山病院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-4121
定山溪病院 札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3323

介護
西円山敬樹園 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021
月寒あさがおの郷 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333
菊水こまちの郷 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110

社会復帰・生活支援
コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321
コミュニティホーム八雲 北海道八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2000
コミュニティホーム美唄 美唄市東5条南7丁目5-1 ☎0126-66-2001
コミュニティホーム岩内 岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-3800
カームビル西円山 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-5500
グループホーム 白石の郷 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 ☎011-864-5861
グループホーム 西円山の丘 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-640-2200
西円山敬樹園ショートステイセンター 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-631-1021
おおしまショートステイセンター 宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272
コミュニティホーム白石ショートステイセンター 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5321

介護予防・在宅支援

札幌市白石区 第1地域包括支援センター
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-4614

岩内町地域包括支援センター
岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-61-4567

宮城県気仙沼市 在宅介護支援センターおおしま
宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

札幌市中央区 介護予防センター円山
札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6056

札幌市中央区 介護予防センター曙・幌西
札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-633-6055

札幌市白石区 介護予防センター白石中央
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-5535

札幌市南区 介護予防センター定山溪
札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-3311

札幌市手稲区 介護予防センターまえだ
札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-685-3141

生活支援・通所介護
手稲溪仁会ハートケアセンター（デイサービス） 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ☎011-685-2568
新琴似ハートケアセンター（デイサービス） 札幌市北区新琴似12条7丁目1-45 ☎011-763-5500
円山ハートケアセンター（デイサービス） 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 ☎011-632-5500

豊平ハートケアセンター（デイサービス）
札幌市豊平区美園9条5丁目4-21 ☎011-831-5000

西円山敬樹園デイサービスセンター
札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-640-5522

デイサービスセンター白石の郷
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-3100

青葉ハートケアセンター（デイサービス）
札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5000

デイサービスセンターすまいる
美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525

デイサービスセンターおおしま
宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

月寒あさがおの郷デイサービスセンター
札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 ☎011-858-3333

小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷
札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 ☎011-811-8110

溪仁会在宅ケアセンター
札幌市手稲区前田1条12丁目2-8 ☎011-685-2322

札幌西円山病院在宅ケアセンター
札幌市中央区円山西町4丁目7-25 ☎011-642-5000

定山溪病院在宅ケアセンター
札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 ☎011-598-5500

指定居宅介護支援事業所コミュニティホーム白石
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2252

指定居宅介護支援事業所 西円山敬樹園
札幌市中央区円山西町4丁目3-20 ☎011-644-7650

指定居宅介護支援事業所あおば
札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-8761

指定居宅介護支援事業所すまいる
美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525

指定居宅介護支援事業所やくも
北海道八雲町栄町13-1 ☎0137-65-2121

おおしまハートケアセンター
宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

指定居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ
札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 ☎011-632-0605

在宅支援・生活支援
はまなす訪問看護ステーション 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 ☎011-684-0118

訪問看護ステーションあおば
札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 ☎011-893-5500

訪問看護ステーションおおしま
宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2270

訪問看護ステーション岩内
岩内郡岩内町字野東69-26 ☎0135-62-5030

西円山敬樹園ホームヘルパーステーション
札幌市中央区円山西町4丁目3-21 ☎011-644-6110

コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション
札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 ☎011-864-2008

ホームヘルパーステーションすまいる
美唄市東4条南5丁目1-4 ☎0126-66-2525

ホームヘルパーステーションおおしま
宮城県気仙沼市廻館55-2 ☎0226-26-2272

ケアセンターこころ
札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 ☎011-632-0605

ソーシャルヘルパーサービス白石
札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 ☎011-817-7270

ソーシャルヘルパーサービス中央
札幌市中央区北7条西17丁目11 ☎011-633-1771

ソーシャルヘルパーサービス西
札幌市西区発寒8条10丁目4-20 ☎011-669-3530

福祉用具
株式会社 ハートワークス 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F ☎011-863-8010

地域医療支援
泊村立茅沼診療所 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 ☎0135-75-3651

※病院・施設の概要は34ページ～45ページをご覧ください。

各病院、施設、事業の実績データを収載した「溪仁会グループ年次報告書」は、溪仁会グループホームページをご覧ください。	●編集事務局／ 医療法人溪仁会 法人本部 広報室
溪仁会グループ年次報告書	●発行年月／2011年11月
検索	●次回発行予定／ 2012年11月を予定しております。

ずーっと。



私たち溪仁会グループの仕事は、
 あなたの病気を治すことだけでなく、
 年齢に応じた健康維持のアドバイスをしたり、
 介護を含めた老後の安心のお手伝いをすることでもあります。
 心身ともに輝いて生きるために。
 生涯にわたって溪仁会グループは、ずっとあなたのそばに。

ik 溪仁会グループ

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2番1号 サンビル6F
 TEL 011-641-9970 (代) FAX 011-641-9951

[溪仁会グループホームページ](#)

溪仁会グループ

検索

<http://www.keijinkai.com>

